

前 谷 遺 跡 VI

埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

埼玉県戸田市教育委員会

前谷遺跡 VI

埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

埼玉県戸田市教育委員会

はじめに

埼玉県南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口13万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も急速に変わってきておりますが、古来より受け継がれてきた伝統や文化を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護及び活用が求められています。

今回報告いたします前谷遺跡第6次発掘調査は、個人住宅建設に伴い、平成29年に緊急発掘調査が行われたものです。

この発掘調査により、弥生時代末から中世にかけて生活を営んだ人たちが遺した貴重な資料を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を得ることができ、地域の遺跡の性格の一端を明らかにすることができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、御尽力、御協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成31年3月

戸田市教育委員会

教育長 戸ヶ崎 勤

例 言

1. 本書は埼玉県戸田市上戸田二丁目25番5、12に所在する前谷遺跡第6次発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、事業者による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会(以下、「市教委」という。)が実施した。また、出土品整理及び報告書作成作業は、市教委が実施した。
3. 発掘調査は、平成29年4月17日から平成29年5月31日まで行い、整理作業・報告書作成作業は平成29年6月1日から平成31年3月29日まで市教委生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び生涯学習課郷土博物館担当仮事務室にて実施した。
4. 発掘調査及び整理作業、報告書作成に要した経費は、全て戸田市の負担による。
5. 本書は市教委が刊行し、吉田幸一が編集及び執筆を行い、最上志乃が補佐した。
6. 発掘現場での記録写真の撮影は、長澤有史が行い、出土遺物の撮影は吉田が行った。
7. 本書の著作権は、市教委が保有する。発掘調査成果の周知、活用、学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製し、利用できるものとする。
8. 出土遺物及び発掘調査の各種データ等は全て市教委が保管し、活用を図るものとする。
9. 本事業は以下の組織により実施した。

【埼玉県戸田市教育委員会】

教育長 戸ヶ崎 勤 教育部長 鈴木 研二 次 長 熊谷 尚慶

【生涯学習課】

課 長 津田 孝一 (平成30年3月31日まで)

福田 忠史 (平成30年4月1日から)

主 幹 石橋 晴美 (平成30年3月31日まで)

丸山 恵司 (平成30年4月1日から)

副主幹 細井 薫子 (平成30年4月1日から)

主 任 吉次 良介 (平成30年3月31日まで)

主 事 田中 聡 (平成30年3月31日まで)

長澤 有史 (調査・出土品整理 担当 平成30年3月31日まで)

吉田 幸一 (出土品整理・報告書作成担当 平成30年4月1日から)

※文化財保護事業は、平成30年4月1日付けで生涯学習課生涯学習担当から生涯学習課郷土博物館担当が引き継いだ。

発掘調査及び整理作業参加者

榎本 彩 榎本 昇 榎本真由美 大熊福太郎 尾形美枝子 柴田久美子 関根洋子

富山絵里子 中信節子 馬場香織 平吹久美子 前澤由香 最上志乃 吉田幸一

10. 調査及び本書を作成するにあたり、次の方々・機関にご指導、ご協力を賜った。

長澤有史 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課 道路河川課

(敬称略 五十音順)

凡 例

1. 挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に即している。
3. 遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された潤に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。
なお。遺構略号は下記のとおりである。
SX：周溝状遺構 SD：溝状遺構 SE：井戸跡 SK：土坑 P：ピット
4. 発掘調査時の土層観察における色調及び遺物観察における色調は、『新版 標準土色帖』2013年度版（小山正忠・竹原秀雄 編・著者、農林水産省農林水産技術会議事務所監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）を参考にした
5. 遺構断面図内の土層説明は、全て記録者の記載に従う。
6. 遺物拓影図は、向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。また、底面は下に、天井面は上に示した。
7. 遺物の種別の内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭に属する土器は、すべて「土師器」と表記した。
8. 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、その他の土器は断面を白抜きにした。また、拓影がない赤彩部はトーンで図示した。
9. 遺物観察票法量の [] の値は残存部からの推定値を示す。
10. 遺物実測図及び遺構実測図、写真図版の縮尺はすべて挿図中に示した。
11. 標高は、T. P（東京湾中等潮位）を基準とした。
12. 遺構実測図の水糸レベルはすべて標高 3.00m に統一した。
13. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：MY. 6. SX — 1. 1
遺跡略号 調査次 遺構種別 遺構番号 遺物番号

表面採取遺物や攪乱層出土遺物については、遺跡略号及び調査次のみを記載した。

なお、写真図版中の遺物写真には、旧遺構番号のまま註記を修正していないものがある。

目 次

目 次

はじめに

例言／凡例

目次／挿図目次／挿表目次／図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2 整理作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3節 遺跡・調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第4節 基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

1 周溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

2 土坑・・ 20

第2節 その他の遺構と遺物

1 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

2 土坑・・ 26

3 井戸跡・・ 39

4 ピット・・ 43

5 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

第4章 まとめ

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

2 平安時代から中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

3 まとめ・・ 47

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録／奥付

挿図目次

| | | | |
|----------------------|----|-------------------------|----|
| 第1図 埼玉県地形 | 3 | 第21図 第3号溝状遺構実測図 | |
| 第2図 戸田市域地形 | 4 | (SD03) | 24 |
| 第3図 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図 | 5 | 第22図 第3号溝状遺構出土遺物実測図 | |
| 第4図 前谷遺跡調査区位置図 | 7 | (SD03) | 24 |
| 第5図 調査区全体図 | 9 | 第23図 第4号溝状遺構実測図 | |
| 第6図 調査区1全体図 | 10 | (SD04) | 25 |
| 第7図 調査区2全体図 | 11 | 第24図 第5号溝状遺構実測図 | |
| 第8図 調査区3全体図 | 11 | (SD05) | 26 |
| 第9図 等高線・基本土層図 | 12 | 第25図 第1・2・3号土坑実測図 | |
| 第10図 第1号周溝状遺構実測図 | | (SK01・SK02・SK03) | 27 |
| (SX01) | 13 | 第26図 第1号土坑出土遺物実測図 | |
| 第11図 第1号周溝状遺構出土遺物実測図 | | (SK01) | 27 |
| (SX01) | 14 | 第27図 第5・6・7号土坑実測図 | |
| 第12図 第2号周溝状遺構実測図 | | (SK05・SK06・SK07) | 29 |
| (SX02) | 15 | 第28図 第5号土坑出土遺物実測図 | |
| 第13図 第2号周溝状遺構出土遺物実測図 | | (SK05) | 29 |
| (SX02) | 16 | 第29図 第6号土坑出土遺物実測図 | |
| 第14図 第3号周溝状遺構実測図 | | (SK06) | 29 |
| (SX03) | 17 | 第30図 第7号土坑出土遺物実測図 | |
| 第15図 第3号周溝状遺構出土遺物実測図 | | (SK07) | 29 |
| (SX03) | 18 | 第31図 第8号土坑実測図 | |
| 第16図 第5号周溝状遺構実測図 | | (SK08) | 30 |
| (SX05) | 19 | 第32図 第8号土坑出土遺物実測図 | |
| 第17図 第5号周溝状遺構出土遺物実測図 | | (SK08) | 30 |
| (SX05) | 19 | 第33図 第9号土坑実測図 | |
| 第18図 第4号土坑実測図 | | (SK09) | 31 |
| (SK04) | 20 | 第34図 第11・12・13号土坑実測図 | |
| 第19図 第4号土坑出土遺物実測図 | | (SK11・SK12・SK1) | 34 |
| (SK04) | 21 | 第35図 第12号土坑出土遺物実測図 | |
| 第20図 第1・2号溝状遺構実測図 | | (SK12) | 33 |
| (SD01・SD02) | 22 | 第36図 第14・15・16・17号土坑実測図 | |
| | | (SK14・SK15・SK16・SK17) | 35 |

| | | | | | |
|--------|---|----|--------|-------------------------------------|----|
| 第 37 図 | 第 14 号土坑出土遺物実測図 (SK14) | 35 | 第 43 図 | 第 1 号井戸跡 (SE01) | 39 |
| 第 38 図 | 第 18 号土坑実測図 (SK18) | 36 | 第 44 図 | 第 1 号井戸跡出土遺物実測図 (SE01) | 38 |
| 第 39 図 | 第 19・20 号土坑実測図 (SK19・SK20) | 37 | 第 45 図 | 第 2 号井戸跡実測図 (SE02) | 40 |
| 第 40 図 | 第 20 号土坑出土遺物実測図 (SK20) | 37 | 第 46 図 | 第 2 号井戸跡出土遺物実測図 (SE02) | 40 |
| 第 41 図 | 第 21 号土坑実測図 (SK21) | 38 | 第 49 図 | 第 4 号井戸跡出土遺物実測図 (SE04) | 41 |
| 第 42 図 | 第 21 号土坑出土遺物実測図 (SK21) | 38 | | | |

挿表目次

| | | | | | |
|--------|--------------------------------|----|--------|------------------------------|----|
| 第 1 表 | 前谷遺跡周辺遺跡の概要 | 5 | 第 12 表 | 第 8 号土坑出土遺物観察表 | 31 |
| 第 2 表 | 第 1 号周溝状遺構出土遺物観察表 | 14 | 第 13 表 | 第 12 号土坑出土遺物観察表 | 33 |
| 第 3 表 | 第 2 号周溝状遺構出土遺物観察表 | 16 | 第 14 表 | 第 14 号土坑出土遺物観察表 | 36 |
| 第 4 表 | 第 3 号周溝状遺構出土遺物観察表 | 18 | 第 15 表 | 第 20 号土坑出土遺物観察表 | 38 |
| 第 5 表 | 第 5 号周溝状遺構出土遺物観察表 | 20 | 第 16 表 | 第 21 号土坑出土遺物観察表 | 39 |
| 第 6 表 | 第 4 号土坑出土遺物観察表 | 21 | 第 17 表 | 第 1 号井戸跡出土遺物観察表 | 40 |
| 第 7 表 | 第 3 号溝状遺構出土遺物観察表 | 25 | 第 18 表 | 第 2 号井戸跡出土遺物観察表 | 41 |
| 第 8 表 | 第 1 号土坑出土遺物観察表 | 27 | 第 19 表 | 第 4 号井戸跡出土遺物観察表 | 42 |
| 第 9 表 | 第 5 号土坑出土遺物観察表 | 30 | 第 20 表 | ピット計測表 | 44 |
| 第 10 表 | 第 6 号土坑出土遺物観察表 | 30 | 第 21 表 | 遺物出土点数・重量一覧 | 45 |
| 第 11 表 | 第 7 号土坑出土遺物観察表 | 30 | | | |

図版目次

図版 1

- 1 調査区 1 完掘状況（南東から）
- 2 調査区 1 遺構検出状況（北東から）

図版 2

- 1 調査区 2 完掘状況（北から）
- 2 調査区 2 遺構検出状況（北東から）

図版 3

- 1 調査区 3 完掘状況（南から）
- 2 調査区 3 遺構検出状況（北西から）

図版 4

- 1 第 1 号周溝状遺構（南東から）
- 2 第 1 号周溝状遺構土器出土状況（南から）
- 3 第 2 号周溝状遺構（西から）
- 4 第 2 号周溝状遺構土器出土状況（東から）
- 5 第 3 号周溝状遺構（西から）
- 6 第 5 号周溝状遺構（西から）
- 7 第 1・2 号溝状遺構（北から）
- 8 第 3 号溝状遺構（北から）

図版 5

- 1 第 4・5 号溝状遺構（東から）
- 2 第 1・6 号土坑（南東から）
- 3 第 1 号土坑遺物出土状況（北から）
- 4 第 2 号土坑（北東から）
- 5 第 3 号土坑（東から）
- 6 第 4 号土坑（北から）
- 7 第 4 号土坑遺物出土状況（北から）
- 8 第 5 号土坑（北から）

図版 6

- 1 第 7 号土坑（南東から）
- 2 第 7 号土坑遺物出土状況（東から）
- 3 第 9 号土坑（北から）
- 4 第 11 号土坑（南から）
- 5 第 12 号土坑（東から）
- 6 第 13 号土坑（東から）
- 7 第 14 号土坑（北から）
- 8 第 16・17 号土坑（南西から）

図版 7

- 1 第 19・20 号土坑（西から）
- 2 第 21 号土坑（南から）
- 3 第 1 号井戸跡（東から）
- 4 第 1 号井戸跡遺物出土状況（西から）
- 5 第 2 号井戸跡調査状況（南から）
- 6 第 3 号井戸跡（東から）
- 7 第 4 号井戸跡（南西から）
- 8 第 2 号ピット（南から）

図版 8

- 1 第 10 号ピット（南から）
- 2 第 11 号ピット（南から）
- 3 第 12 号ピット（南から）
- 4 第 15 号ピット（南から）
- 5 第 21 号ピット（北から）
- 6 第 22 号ピット（北から）
- 7 第 24・25 号ピット上の焼土検出（南東から）
- 8 第 25 号ピット（南から）

图版 9

- 1 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 1)
- 2 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 2)
- 3 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 3)
- 4 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 4)
- 5 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 5)
- 6 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 6)
- 7 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 7)
- 8 第 1 号周溝状遺構 (第 11 图 8)

图版 10

- 1 第 2 号周溝状遺構 (第 13 图 1)
- 2 第 2 号周溝状遺構 (第 13 图 2)
- 3 第 2 号周溝状遺構 (第 13 图 3)
- 4 第 3 号周溝状遺構 (第 15 图 1)
- 5 第 3 号周溝状遺構 (第 15 图 2)
- 6 第 3 号周溝状遺構 (第 15 图 3)
- 7 第 5 号周溝状遺構 (第 17 图 1)
- 8 第 4 号土坑 (第 19 图 1)

图版 11

- 1 第 4 号土坑 (第 19 图 2)
- 2 第 4 号土坑 (第 19 图 3)
- 3 第 4 号土坑 (第 19 图 4)
- 4 第 4 号土坑 (第 19 图 5)
- 5 第 3 号溝跡 (第 22 图 1)
- 6 第 3 号溝跡 (第 22 图 2)
- 7 第 1 号土坑 (第 26 图 1)
- 8 第 5 号土坑 (第 28 图 1)

图版 12

- 1 第 6 号土坑 (第 29 图 1)
- 2 第 6 号土坑 (第 29 图 2)
- 3 第 7 号土坑 (第 30 图 1)
- 4 第 7 号土坑 (第 30 图 2)
- 5 第 8 号土坑 (第 32 图 1)
- 6 第 12 号土坑 (第 35 图 1)
- 7 第 14 号土坑 (第 37 图 1)
- 8 第 20 号土坑 (第 40 图 1)

图版 13

- 1 第 20 号土坑 (第 40 图 2)
- 2 第 21 号土坑 (第 42 图 1)
- 3 第 1 号井戸跡 (第 44 图 1)
- 4 第 1 号井戸跡 (第 44 图 2)
- 5 第 2 号井戸跡 (第 46 图 1)
- 6 第 2 号井戸跡 (第 46 图 2)
- 7 第 4 号井戸跡 (第 49 图 1)
- 8 第 4 号井戸跡 (第 49 图 2)

第 1 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

平成 29 年 3 月、事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教育委員会」という。）に対し、戸田市上戸田二丁目 25 番 5 及び 12（地番表示）における 477.55 m²の個人住宅建設事業計画及び埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

当該事業計画地は、平成 27 年 12 月 8 日及び平成 28 年 9 月 30 日の二度にわたり、それぞれ別の事業者からの依頼に基づき市教育委員会による試掘確認調査を実施していた。試掘調査では、弥生時代末から古墳時代前期に帰属する周溝状遺構、溝状遺構等が確認され、同時期に帰属するものと考えられる土器を検出していた。この試掘調査のきっかけとなった両事業については、中止となっていた。

今回の事業計画地について過去の試掘調査の結果に基づき市教育委員会と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、基礎工事等で埋蔵文化財の破壊が避けられない部分（211.66 m²）については記録保存のための緊急発掘調査を行い、残りの部分（265.89 m²）は、遺構確認面から 30 cm 以上の保護層を確保することにより埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

平成 29 年 4 月 10 日、事業者から文化財保護法第 93 条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教育委員会は平成 29 年 4 月 11 日付戸教生第 296 号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）に宛て進達した。

これを受け、県教育委員会から事業者に対し、平成 29 年 5 月 19 日付け教生文第 4 -61 号で、事業計画地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査に当たり、事業者は、市教育委員会に対し、平成 29 年 4 月 3 日付けで発掘調査の依頼書を提出した。また、翌 4 日付け戸教生第 4 号にて事業者及び市教育委員会の二者による「戸建専用住宅建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第 99 条に基づき、市教育委員会から県教育委員会宛てに平成 29 年 4 月 11 日付け戸教生第 49 号にて埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、前谷遺跡第 6 次発掘調査を実施することとなった。

第 2 節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査

前谷遺跡第 6 次調査は、平成 29 年 4 月 17 日から 5 月 31 日まで実施した。調査面積は、211.66 m²である。4 月 17 日に調査区設定、発掘現場の仮囲い等を行った。事業予定地内に 3 調査区を設定した。また、同日重機による表土剥ぎを実施し、掘削した排出土はダンプにより調査区外に搬出し、保管した。機材等は、現場で保管した。18 日は、午前中が降雨のため、機材搬入を実施し、午後天候を待ち調査区内の水抜き作業を行った。19 日に発掘調査補助員を動員し、人力による遺構確認を行い、遺構検出状況の写真撮影を行った。発掘調査での写真撮影は、全てデジタル一眼レフカメラ Nikon D5100 を使用し、JPEG 形式にて撮影した。また、遺構検出と同時に、委託業者による調査区の測量、基準杭打設を行った。併せて 2 m 四方のグリッドを設定し、全体の測量図を作成した。19 日から検出された遺構の番号付与及び土層観察用ベルトを設定し、遺構掘削を開始した。4 月 19 日から 5 月 30 日まで遺構掘削を行い、遺構平面図、土層断面図作成、出土遺物の取り上げを行った。平面図及び出土遺物の取り上げは、全て簡易遣り方測量で実施した。遺構掘削で生じた排出土は、当該開発予定地内に仮置きした。調査区 1 の調査は、5 月 16 日までに終了し、17 日午前、重機による埋め戻し及び整地を実施した。

5 月 30 日までに残りの調査区全体の遺構掘削が完了し、適宜調査区内のレベリングを実施し、30 日に終了した。その後は、調査区全景写真及び遺構完掘状況の撮影を行った。5 月 10 日、25 日及び 26 日は、雨天のため作業を中止した。29 日午後から 30 日にかけて機材整理及び土嚢崩しを行い、31 日午前には、重機により調査区外から搬入した排出土の埋め戻し、整地を行い、午後現状復旧を行い、全ての現場作業が完了した。

2 整理作業

当該調査に係る出土品及び図面の整理作業、報告書作成は平成 29 年 6 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市心身障害者福祉センター 3 階生涯学習課郷土博物館仮事務室にて実施した。

発掘現場で採取した出土品は、洗浄・註記・接合を行った。その後、報告書に掲載するもの抽出・実測図作成・拓影採取を行った。採取した拓影はスキャナにてコンピュータに取り込んだ後、Adobe Photoshop にて修正し、デジタルデータ化した。遺物実測図、発掘現場で遺構平面図、土層断面図等の図面類も、スキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化した。これらの各種図面データは、Adobe Illustrator にてデジタルトレースを行った。

遺物写真は、Nikon D610、105 mm 単焦点マクロレンズを使用して RAW (NEF) 形式で撮影し、Adobe Camera Raw により現像処理、ホワイトバランス等の補正を行い、TIFF 形式ファイルを作成した。版下は、Adobe Illustrator、Adobe InDesign にて作成し、PDF 形式ファイルにて入稿した。

第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

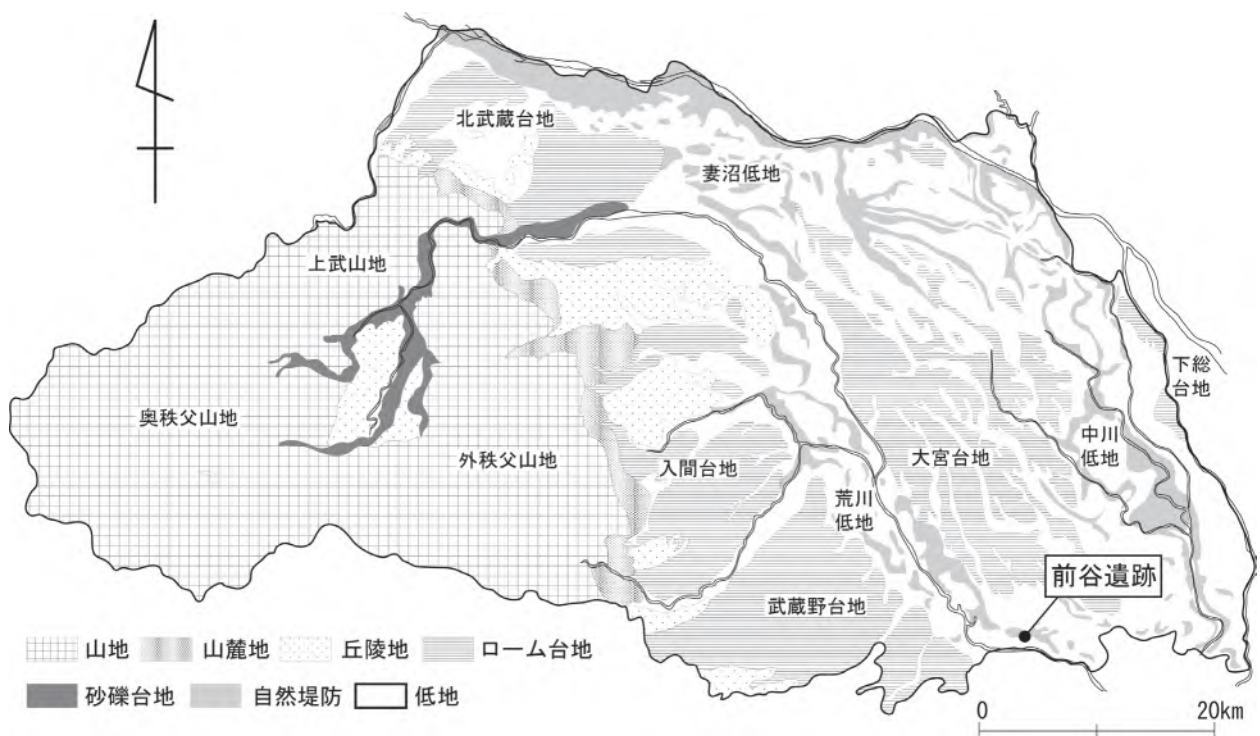
第1節 地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約6.0km、南北約3.0km、面積18.19㎢の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市及び川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市及び和光市、南の東京都板橋区及び北区とは、荒川を隔てて接している。市域には、国道17号線（旧中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速5号線、東京外郭環状道路、JR埼京線の開通により、交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、関東北西部の山地に端を発する荒川によって形成された平坦な沖積低地（荒川低地）が全域を占める。荒川は氾濫や流路の変更によって、市域の中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市にかけて微高地（自然堤防）を形成している。この微高地の南北に低地が裾のように広がる。

前谷遺跡は、上戸田二丁目を中心に広がる遺跡である。JR埼京線戸田公園駅から北東に約700m、戸田駅から南東に約900mの位置に所在し、東側に国道17号線（旧中山道）が南北に走る。

今回の調査区は、前谷遺跡の西端、荒川左岸に形成された標高約3.5mほどの自然堤防上に立地する。この自然堤防は、荒川旧河道に沿うように発達し、戸田市域では美女木から笹目を通り、本町、上戸田を抜けて川口市へと延びる。戸田市域における自然堤防上の標高は、約3.0mから4.5mほどであり、低地部は、約2.5mから3.0mほどであるため、現在では平坦な地形が広がっている。



第1図 埼玉県の地形

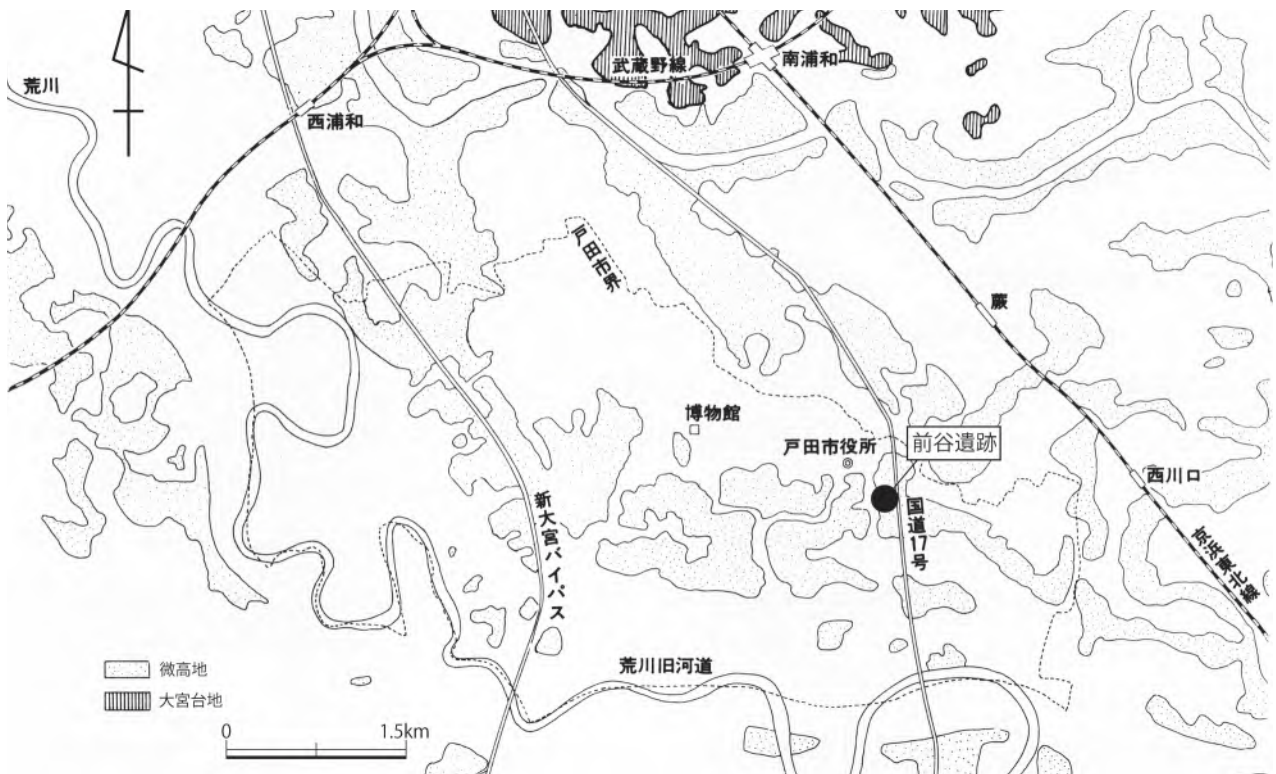
第2節 歴史的環境

戸田市では、現在までのところ、旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代に帰属する遺跡も確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯 a 式の破片資料 1 点が出土しており、本町からは前期末、十三菩提式深鉢形土器の大型破片 1 点が出土している。中期は、中葉から後葉にかけての遺物が出土している。鍛冶谷・新田口遺跡では、勝坂式や加曽利 E 式の破片資料の出土が報告されており、南原遺跡などでも阿玉台式や加曽利 E 式期の土器片が微量ながら検出されている。後期は、中葉から後葉の土器が検出されている。鍛冶谷・新田口遺跡では、堀之内式、加曽利 B 式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。

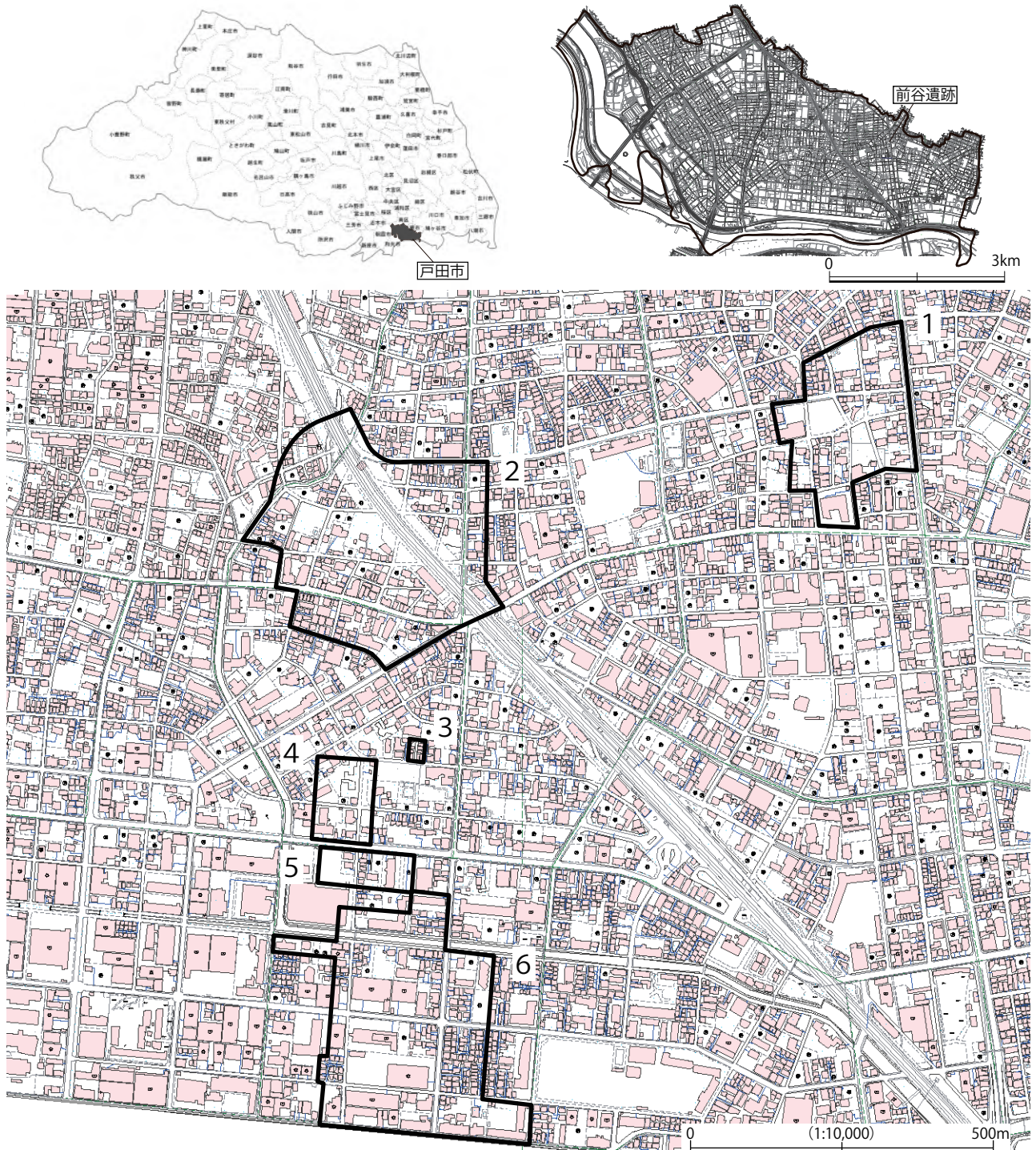
縄文時代後期から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭になると、市域内の微高地上に遺跡が多く形成されるようになる。

弥生時代後期末から古墳時代前期末では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡及び根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和 51 年 (1976) に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓 (周溝状遺構) 群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、第 2 次及び第 3 次調査では、環濠と思われる溝状遺構と溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された遺跡は南原遺跡第 2 次調査 B 区で竪穴住居跡 3 軒、第 9 次調査で井戸跡 1 基、第 10 次調査で竪穴住居跡 1 軒と、土坑 2 基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田



第2図 戸田市域の地形



第3図 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図

第1表 前谷遺跡周辺遺跡の概要

| NO. | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 主な時代 | 立地 |
|-----|-----------|------------------------|---------|------------------------|------|
| 1 | 前谷遺跡 | 戸田市上戸田2丁目 | 集落跡・城館跡 | 弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町 | 自然堤防 |
| 2 | 鍛冶谷・新田口遺跡 | 戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新曾 | 集落跡 | 弥生後期・古墳前期 | 自然堤防 |
| 3 | 大前遺跡 | 戸田市本町3丁目 | 集落跡 | 古墳前期・平安・南北朝・室町 | 自然堤防 |
| 4 | 上戸田本村遺跡 | 戸田市本町3丁目 | 集落跡・円墳 | 古墳後期 | 自然堤防 |
| 5 | 南町遺跡 | 戸田市南町 | 集落跡 | 古墳前期 | 自然堤防 |
| 6 | 南原遺跡 | 戸田市南町 | 集落跡・円墳 | 弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉 | 自然堤防 |

本村遺跡には、「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在していたとされ、墳丘の盛土が僅かに残存しており、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀2振が出土している。また、上戸田本村遺跡では第1次調査で鬼高期の竪穴住居跡2軒、第4次調査で馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。南原遺跡では、第1次調査で人物埴輪、円筒埴輪等が出土した円墳1基、第2次調査A区で円形周溝墓（円墳）1基、第3次調査D区で鬼高式期の竪穴住居跡1軒と屋外竈1基、第4次調査で円形周溝墓（円墳）2基、6次調査で円形周溝墓（円墳）1基、第8・9次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が2基検出されている。第12次調査では、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。

平安時代は、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、ピット列が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつて佐々目郷（篠目・笹目）に当たり、鶴岡八幡宮の社領であったことが文献資料から分かっている。当該期は、大前遺跡や前谷遺跡、南原遺跡、南町遺跡及び美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸跡などが検出されている。前谷遺跡、南原遺跡及び上戸田本村遺跡からは、断面が薬研状の溝状遺構が検出されており、『新編武蔵国風土記稿』による桃井播磨守の居城であったとされる「蕨城」「戸田の御所」の関連も指摘されるが、未だその明確な位置や検出された遺構との関係性については、明らかになっていない。

近世は、市の大半の村が幕府の直轄領であり、徳川家の鷹場であったことが分かっている。また、江戸五街道の一つである中山道の整備により荒川を渡るための「戸田の渡し」が板橋宿と蕨宿を結ぶ交通の要所として機能していたことが文献資料により明らかになっている。

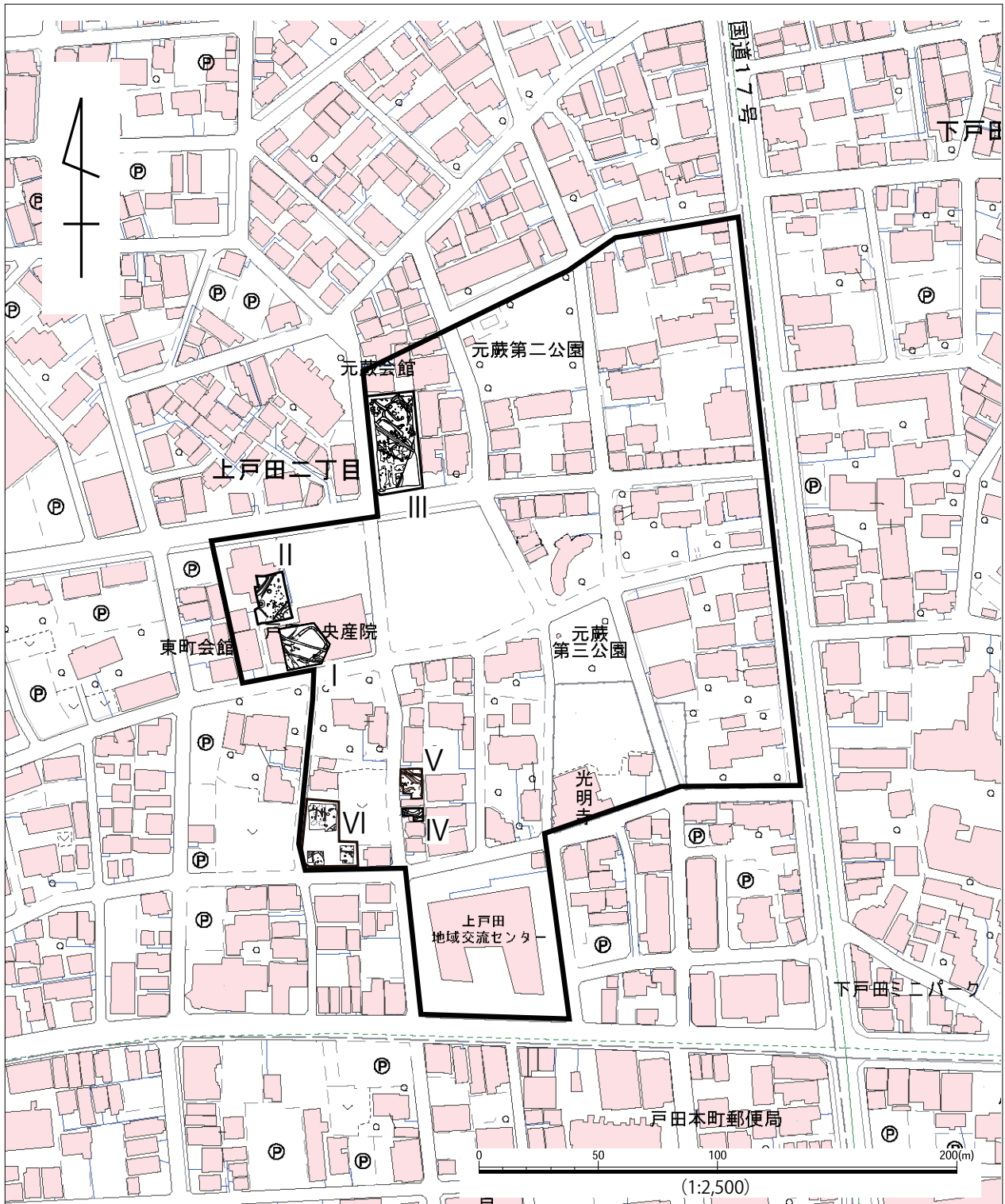
第3節 遺跡・調査の概要

前谷遺跡は、JR埼京線戸田公園駅から北東約700mの埼玉県戸田市上戸田二丁目地内に所在する。遺跡周辺には、「檣構(とうがまえ)」、「竹ノ内」、「左衛門屋敷」、「雑色」、「元蕨」等の地名が古くから残っており、土塁の一部であった可能性のある地膨れ状の地形が残存していたことから、かつて「蕨城」が存在していた可能性が指摘されている。

本遺跡は、昭和47年(1972)の第1次発掘調査から、本調査を含めて6次にわたる発掘調査が実施されている。

第1次発掘調査は、昭和47年8月23日から9月6日までの期間で、店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構2基と平安時代から中世の溝状遺構8条などである。遺物は、周溝状遺構から複合口縁を持つ壺形土器、台付甕形土器、広口壺形土器、高坏形土器などが出土しており、溝状遺構からは、第3溝から10世紀代に比定できる灰釉陶器、須恵器、土師器等が検出されている。また、第4溝は、断面形状が薬研状を呈しており、中世城館の堀であった可能性が指摘されている。

第2次発掘調査は、平成19年(2007)2月13日から3月20日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後



- | | | |
|-----|------------------|-------------------------------|
| I | 第1次調査(1972) | : 戸田市教育委員会調査(伊藤1978) |
| II | 第2次調査(2007) | : 戸田市教育委員会調査(岩井2014) |
| III | 第3次調査(2011) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(赤熊2012) |
| IV | 第4次調査(2011~2012) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(岩井2015) |
| V | 第5次調査(2016) | : 戸田市教育委員会調査(長澤2018) |
| VI | 第6次調査(2017) | : 戸田市教育委員会調査(本報告) |

第4図 前谷遺跡調査区位置図

半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 2 基、平安時代の掘立柱建物跡 1 棟、溝状遺構 3 条、中世の溝状遺構 2 条、井戸跡 2 基、土坑 1 基、その他時期不明であるが平安時代から中世に帰属する可能性がある柵列跡 4 列、土坑 4 基、ピット 43 基である。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の瓦塔片、土師器、須恵器、中世の陶器、漆器、板碑、その他土製紡錘車、砥石等である。これらのなかでも詳細な時期・産地は不明であるが、第 5 号溝状遺構から出土した線刻画が施された須恵器瓶の破片資料は、他に類例が少なく、特筆できる。

第 3 次発掘調査は、平成 23 年（2011）12 月 1 日から平成 24 年（2012）1 月 31 日までの期間で、戸建分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は古墳時代前期の周溝状遺構 6 基、井戸跡 1 基、土坑 10 基、平安時代の土坑 37 基、井戸跡 3 基、溝状遺構 1 条、ピット 59 基、中・近世の溝状遺構 4 基、井戸跡 1 基などである。遺物は、周溝状遺構 6 基から複合口縁を持つ壺形土器、甕形土器、台付甕形土器、無頸壺などが出土している。平安時代以降では、土坑や井戸跡から 8 から 9 世紀の東金子、南比企及び末野産の須恵器、中世の常滑焼、近世の天目茶碗等が出土している。

第 4 次発掘調査は、平成 23 年 12 月 26 日から平成 24 年 1 月 18 日までの期間で戸建専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 1 基、溝状遺構 1 条、平安時代の溝状遺構 3 条、その他時期不明のピット 2 基を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦塔片、中世の陶器等を検出した。

第 5 次発掘調査は、平成 28 年（2016）6 月 1 日から 6 月 30 日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 4 基、溝状遺構 1 条、平安時代の溝状遺構 1 条、土坑 2 基、井戸跡 2 基、その他時期不明のピット 11 基を検出した。遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中世の陶器片を検出した。

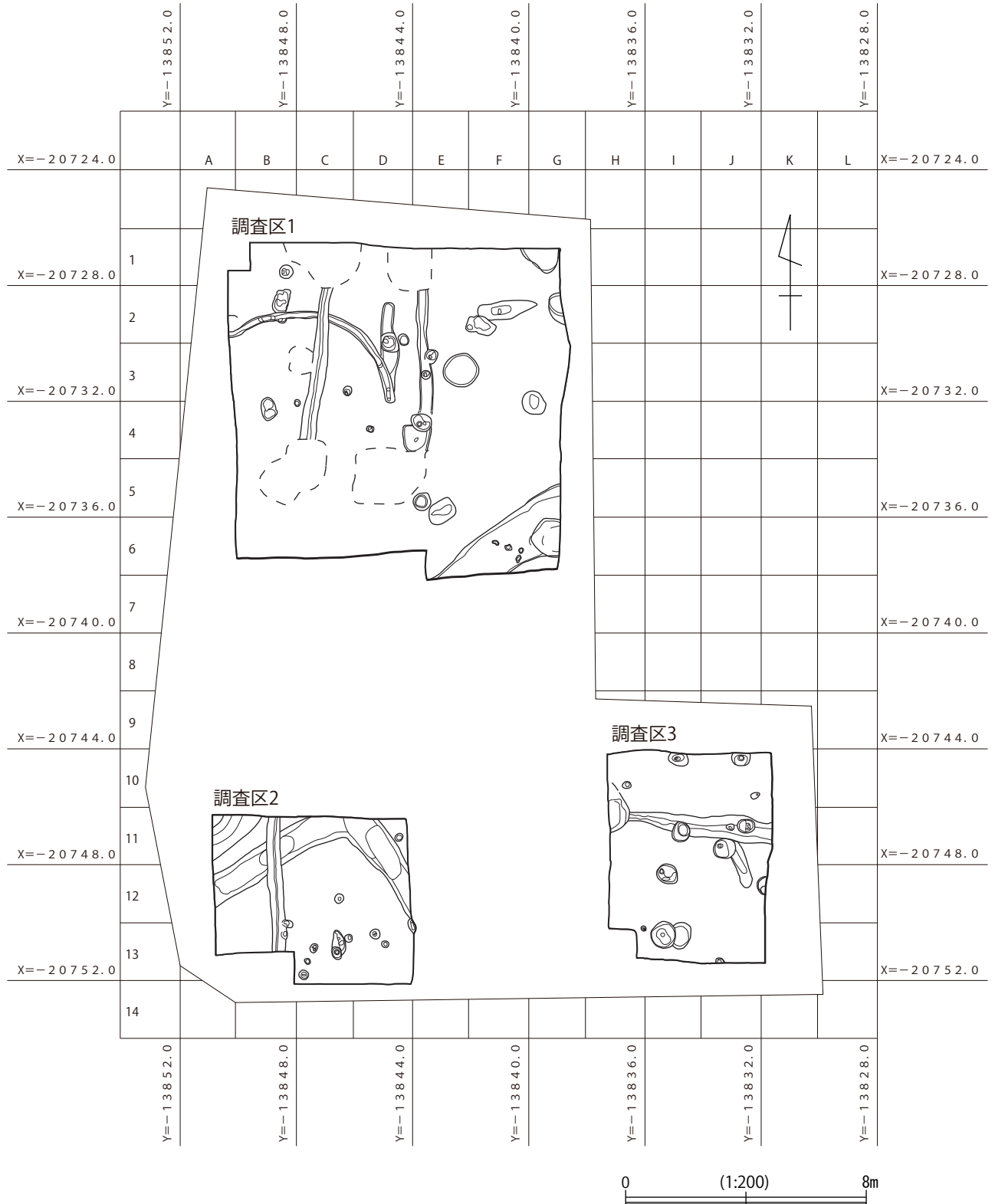
本調査は、第 6 次の発掘調査となる。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 4 基、土坑 1 基、平安時代から中世相当の溝状遺構 5 条、土坑 21 基、井戸跡 4 基を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中近世の陶器片が出土した。

第 4 節 基本土層

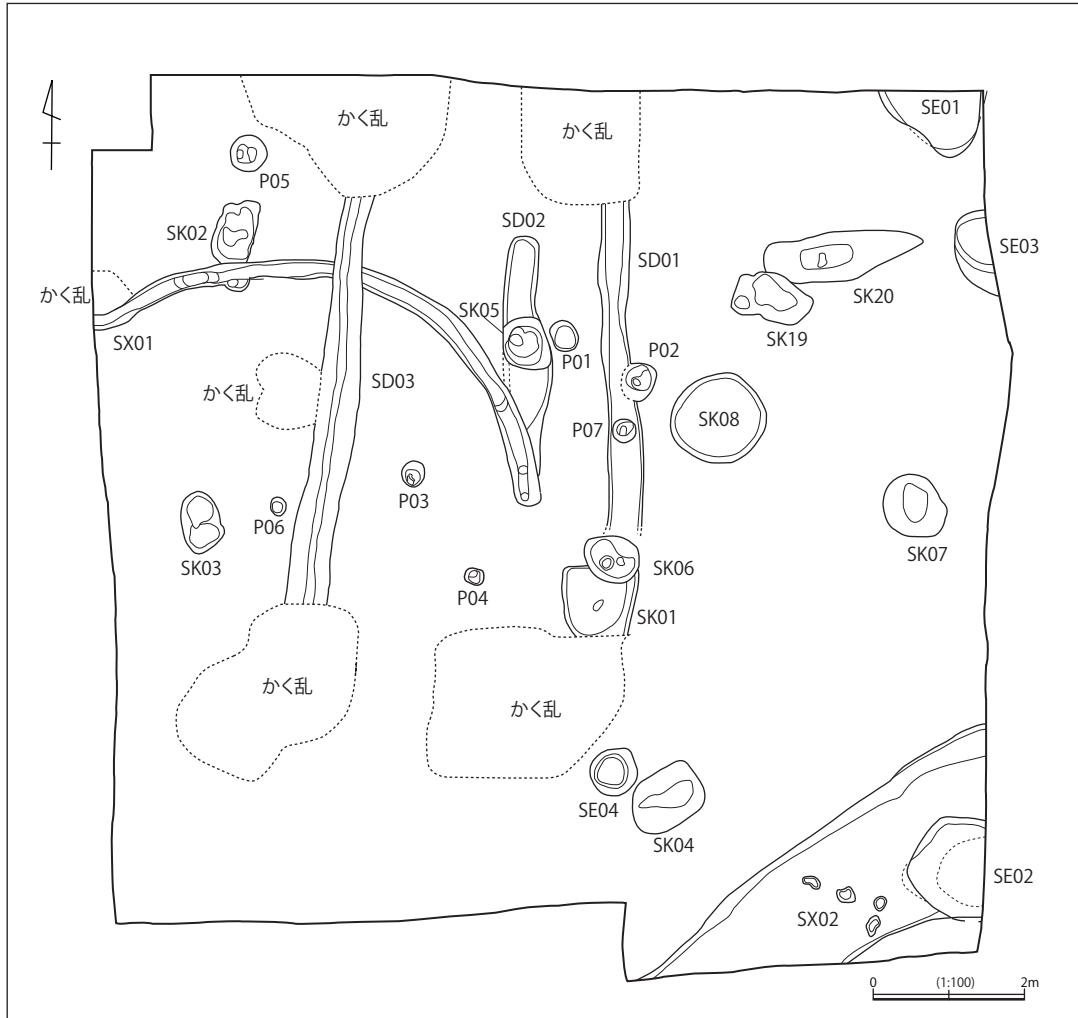
基本土層は、G- 4・5 グリッドで確認し、地表面下 0.9m まで堆積を確認し、6 層に分層した。（第 9 図）また、本調査区の遺構確認面の標高は、おおよそ 2.65 m～2.95 m であり、顕著な起伏はなく、ほぼ平坦であるが、南東に向かって緩やかに傾斜している。

1 層は、暗褐色土の表土攪乱層であり、現代の攪乱の影響を受けている。2 層は、褐灰色土層で、耕作土層と考えられる。3 層は、にぶい黄褐色の粘質土層であり、本層の上面において遺構を検出したため、遺構確認面として認識した。4 層は、にぶい黄褐色土であるが、3 層に比べや

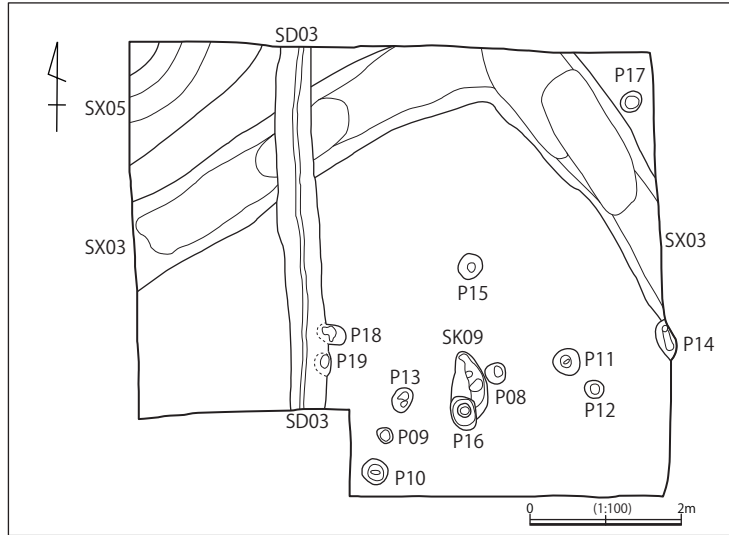
や砂質であり、しまりが乏しく粘性がない。5層は、にぶい黄褐色土で砂を多く含み、しまりは弱く、粘性がややある。6層は、にぶい黄褐色土で5層よりも砂を多く含んでいる。3層以下は、自然堆積層であり、河川氾濫に伴う堆積であり、3層堆積後の安定した土壌に弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭に遺跡が形成されたと想定される。



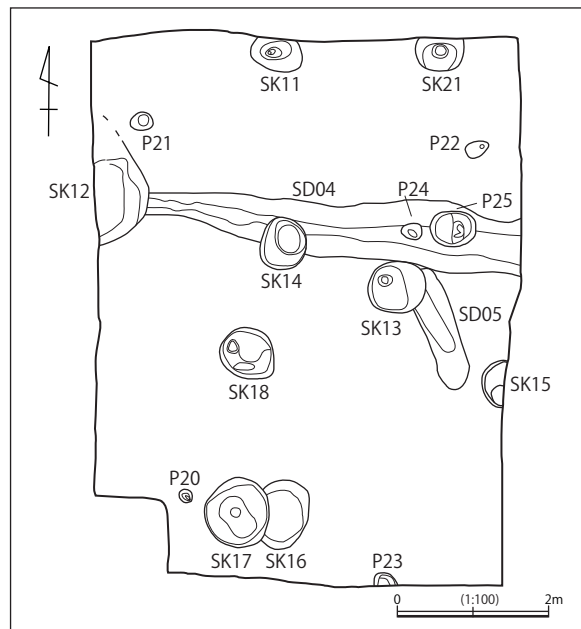
第5図 調査区全体図



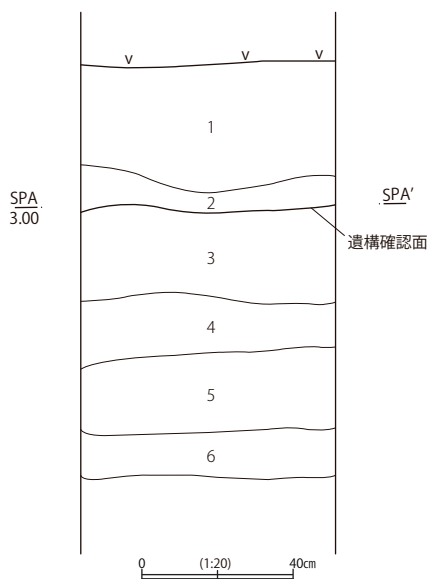
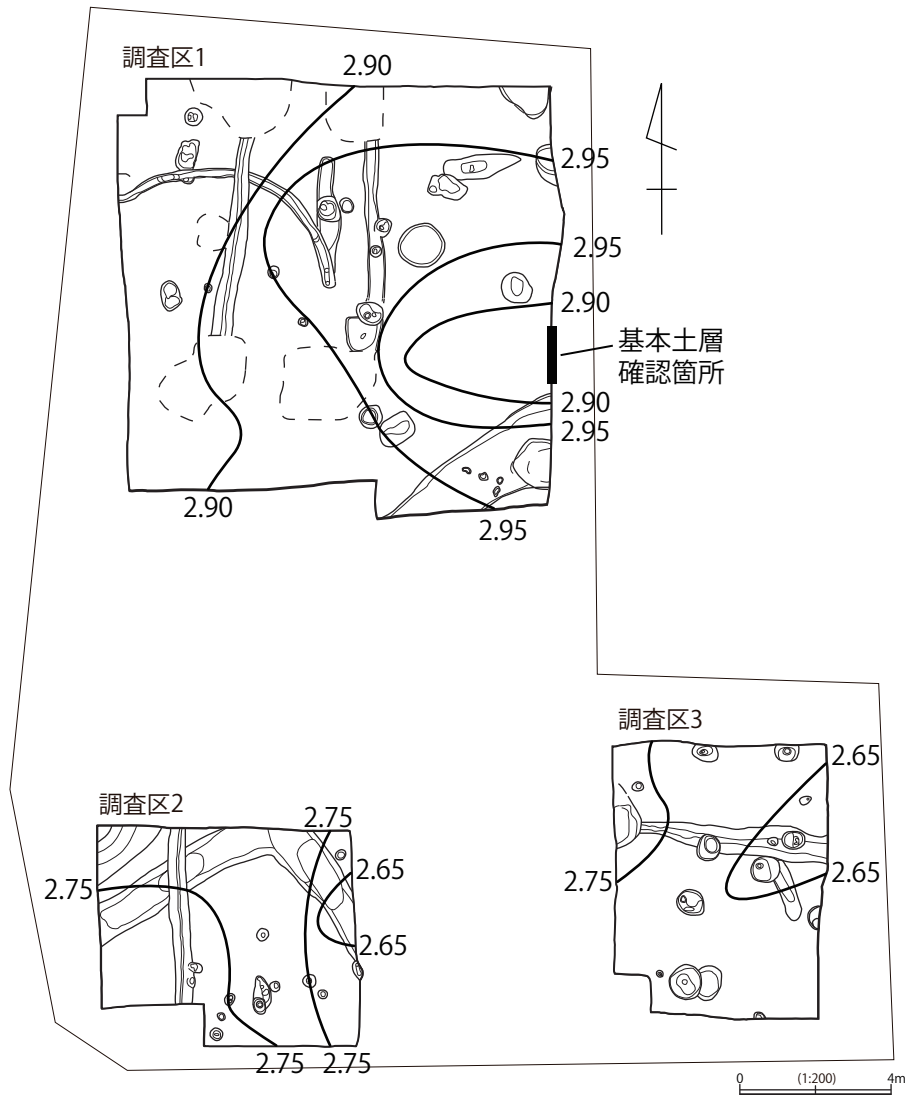
第6図 調査区1全体図



第7図 調査区2全体図



第8図 調査区3全体図



基本土層 土層説明

- 1層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの黒褐色粒子少量、φ2~3mmの赤褐色粒子少量、φ10~15mmの褐色ブロック微量、φ10mm大の赤褐色ブロック微量
- 2層 色調:10YR4/1(褐灰色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR5/4(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~5mmの赤褐色粒子中量、φ10~20mmの黒褐色ブロック少量
- 4層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:弱い 粘性:なし やや砂質
含有物:φ10mmの黒褐色ブロック微量、φ1~3mmの赤褐色粒子中量、φ1~3mmの褐色粒子多量
- 5層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:弱い 粘性:あり 砂層
含有物:φ10mmの黒褐色ブロック微量、φ5mmの赤褐色粒子多量、φ5mmの褐色粒子多量
- 6層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:なし 粘性:あり 砂層が強い
含有物:φ5~10mmの赤褐色粒子微量、φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量

第9図 等高線・基本土層図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の遺構と遺物

1 周溝状遺構

第1号周溝状遺構—SX01

遺構（第10図 図版4-1、2）

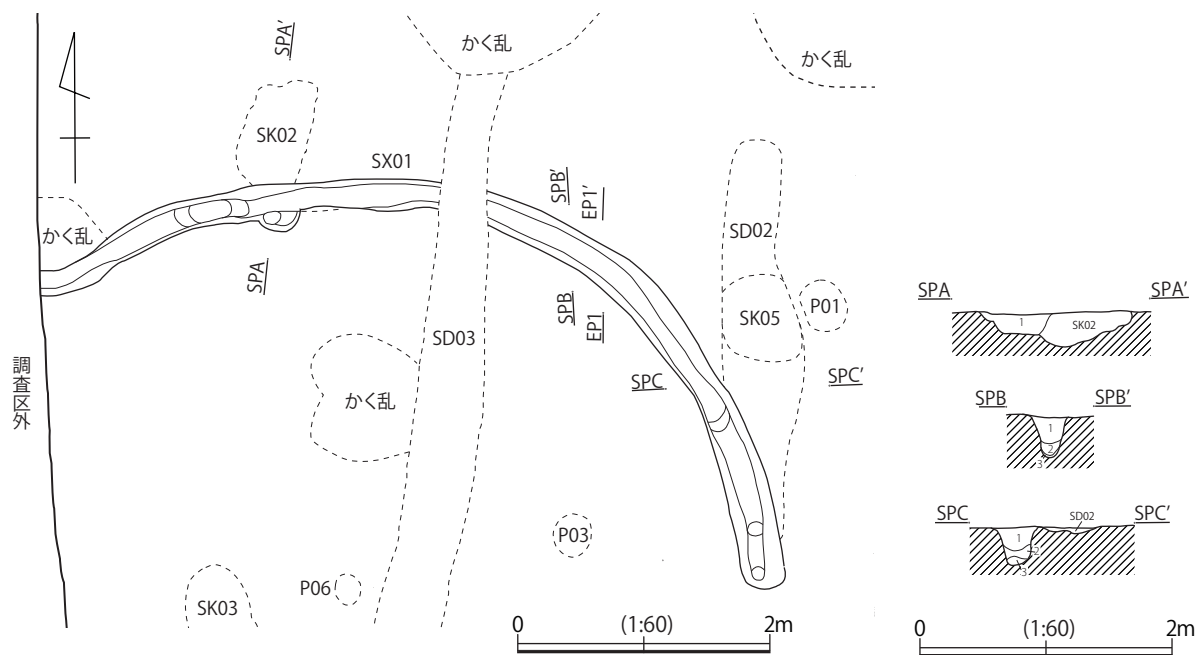
位置：A～D-2～4グリッド。重複関係：SD02、SD03及びSK02に切られている。平面形・規模：西端は調査区外に伸びている。全体形長さ7.64m、上端幅が0.17～0.20m、下端幅0.10～0.18m。確認面からの深さは0.24～0.47mである。断面形状は、U字状である。主軸方位：N-6°-W。覆土：3箇所覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積と考えられる。

遺物（第11図、第2表、図版9-1～8）

出土状況：本遺構からは、193点、1858.6gの遺物が出土した。土師器176点、1,651.0g、ロクロ土師器2点、30.5g、須恵器8点、54.4g、陶器4点、66.5g、その他、石、砥石、古銭が各1点、56.2gである。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭と考えられる。



SX01(SPA-SPA')

- 1層 色調：10YR2/2(黒褐色) しまり：あり 粘性：若干あり
含有物：φ10mmの褐色ブロック少量、φ2～5mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの褐色粒子中量

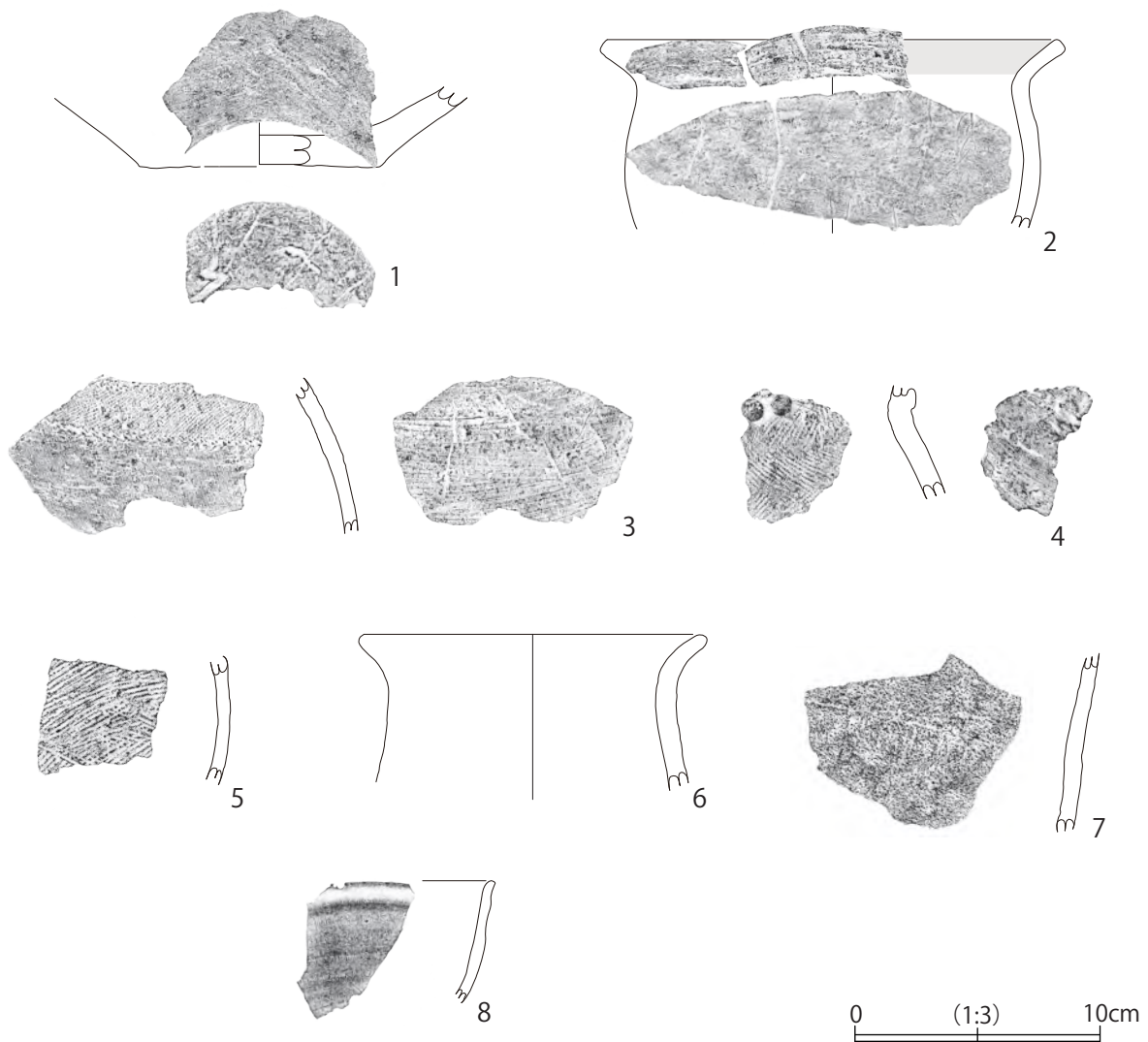
SX01(SPB-SPB')

- 1層 色調：10YR3/3(暗褐色) しまり：あり 粘性：あり
含有物：φ1mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの褐色粒子少量、φ1～3mmの黒褐色粒子微量、φ1～3mmの褐色粒子少量
- 2層 色調：10YR3/2(黒褐色) しまり：強い 粘性：あり
含有物：φ10mmの灰褐色ブロック少量、φ1～3mmの褐色粒子少量、φ1～3mmの黒褐色粒子少量、φ1～5mmの赤褐色粒子中量
- 3層 色調：10YR4/2(灰黄褐色) しまり：あり 粘性：強い、やや砂質
含有物：φ10mmの赤褐色ブロック少量、φ1～3mmの褐色粒子微量<自然堆積>

SX01(SPC-SPC')

- 1層 色調：10YR3/1(黒褐色) しまり：強い 粘性：ややあり
含有物：φ5～7mmの褐色粒子中量、φ1～2mmの赤褐色粒子少量
- 2層 色調：10YR4/1(褐灰色) しまり：あり 粘性：あり
含有物：φ10mmの褐色ブロック多量、φ2～5mmの赤褐色粒子中量、φ5mmの褐色粒子中量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 3層 色調：10YR3/1(黒褐色) しまり：あり 粘性：あり
含有物：φ10～20mmの灰褐色ブロック中量、φ10mmの褐色ブロック少量、φ5mmの赤褐色粒子少量、φ5～10mmの褐色ブロック微量

第10図 第1号周溝状遺構実測図 (SX01)



第11図 第1号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX01)

第2表 第1号周溝状遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|------------|------------|--------------------------|-------|----------|-------------------|---|----|----------------|----------------|---------------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 11-1 9-1 | SX01 | 土師器 壺 | 底部 | — | 118.7 | 外面 | ヘラナデ(横) 底面 木葉痕 | φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下白色粒子多量 φ1mm以下金雲母片微量 | 良 | 外面 | 橙(7.5YR6/6) | 底面: 木葉痕 |
| 内面 | | | | | | ヘラナデ(横) | 内面 | | | 褐灰(7.5YR4/1) | | |
| 11-2 9-2 | SX01 | 土師器 大口壺 | 口縁部 ~胴部 | — | 83.6 | 外面 | ナデ(横) | φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下白色粒子微量 | 良 | 外面 | にぶい黄橙(10YR7/4) | 口縁部: 内面 赤彩 |
| 内面 | | | | | | ナデ(横) | 内面 | | | にぶい黄橙(10YR7/5) | | |
| 11-3 9-3 | SX01 | 土師器 壺 | 胴部 | — | 64.8 | 外面 | S字状結節文 | φ1mm以下白色粒子多量 φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 良 | 外面 | にぶい黄橙(10YR6/3) | 外面: 赤彩 |
| 内面 | | | | | | ナデ(横) | 内面 | | | 灰黄褐(10YR4/2) | | |
| 11-4 9-4 | SX01 | 土師器 壺 | 胴部 | — | 27.6 | 外面 | 縄文無節R 円形浮文2個 | φ1mm以下白色粒子微量 | 普通 | 外面 | にぶい黄橙(10YR6/4) | |
| 内面 | | | | | | ナデ(横) | 内面 | | | にぶい黄褐(10YR5/3) | | |
| 11-5 9-5 | SX01 | 土師器 甕 | 胴部 | — | 21.3 | 外面 | ハケメ(横) | φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 良 | 外面 | にぶい赤褐(5YR5/3) | |
| 内面 | | | | | | ヘラナデ(横) | 内面 | | | にぶい赤褐(5YR4/4) | | |
| 11-6 9-6 | SX01 | 土師器 甕 | 口縁部 ~胴部 | — | 40.3 | 外面 | 口唇部ナデ 胴部ヘラケズリ(縦) | φ1mm以下砂粒多量 φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 普通 | 外面 | 橙(7.5YR7/6) | 平安 |
| 内面 | | | | | | ヘラケズリ(横) | 内面 | | | にぶい橙(7.5YR6/4) | | |
| 11-7 9-7 | SX01 | 土師器 甕 | 胴部 | — | 42.2 | 外面 | ヘラケズリ(縦) | φ1mm以下砂粒多量 φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 普通 | 外面 | 橙(5YR6/6) | 平安 内面: 煤付着 |
| 内面 | | | | | | ヘラケズリ(横) | 内面 | | | 暗赤褐(5YR3/2) | | |
| 11-8 9-8 | SX01 | 灰釉陶器 碗か | 口縁部 ~体部 | — | 16.5 | 外面 | ロクロ成形 | φ1mm以下白色粒子極微量 | 良 | 外面 | 灰白(2.5Y7/1) | 内面: 自然釉 |
| 内面 | | | | | | 内面自然釉 | 内面 | | | 灰白(2.5Y7/2) | | |

第2号周溝状遺構—SX02

遺構（第12図 図版4-3、4）

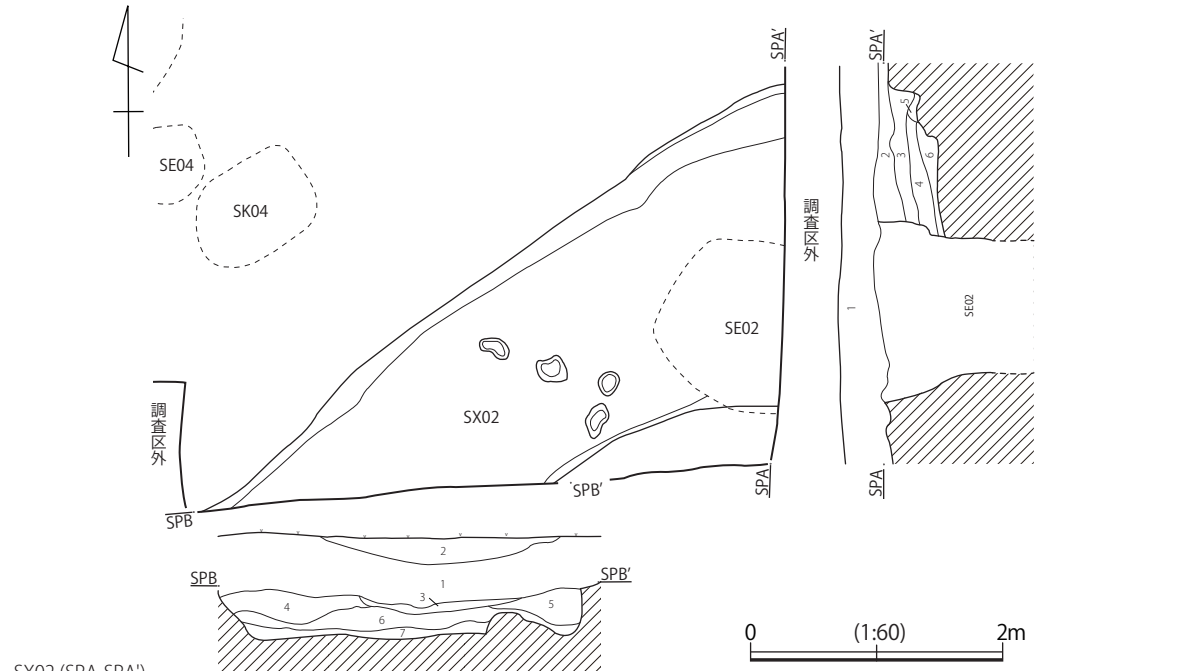
位置：E～G-5～7グリッド。重複関係：SE02に切られている。平面形・規模：調査区1の南東角に位置し、確認された部分については、北東から南西に緩やかに弧を描いている。遺構の両端が調査区外に伸びているため、全体形状は不明である。確認されている長さ3.90m、上端幅が1.65～2.18m、下端幅1.56～1.60m。確認面からの深さは0.58mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N-130°-E。覆土：2箇所覆土を観察した。12層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第13図、第3表、図版10-1～3）

出土状況：本遺構からは、86点、814.6gの遺物が出土している。土師器71点、647.0g、須恵器15点、167.6gである。

時期

遺構形状と出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭と考えられる。



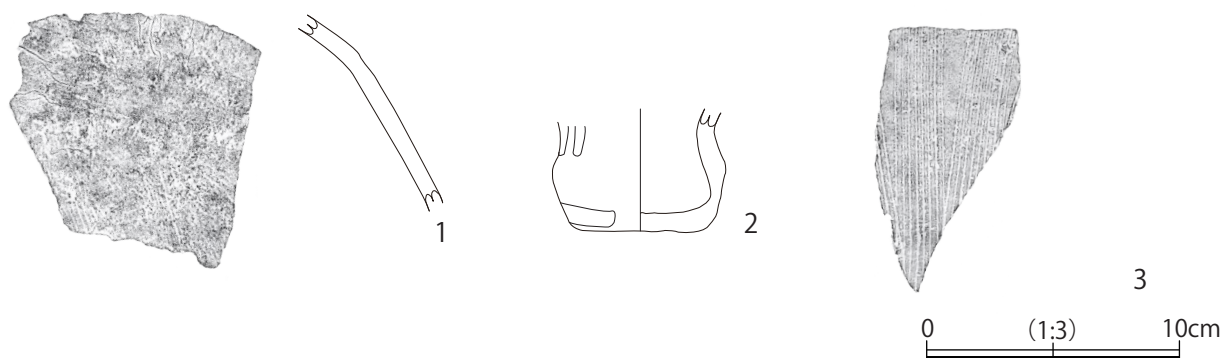
SX02 (SPA-SPA')

- 1層 色調：10YR3/3(暗褐色) しまり：強い 粘性：なし 現代の攪乱の影響を受けている。
含有物：φ2～3mmの黒褐色粒子少量、φ2～3mmの赤褐色粒子少量、φ10～15mmの褐色ブロック微量、φ10mmの赤褐色ブロック微量
- 2層 色調：10YR4/1(褐灰色) しまり：強い 粘性：なし
含有物：φ1～3mm大の赤褐色粒子少量、φ3～5mmの褐色粒子微量
- 3層 色調：10YR3/3(暗褐色) しまり：強い、削ると光沢あり 粘性：若干あり
含有物：φ1～3mmの赤褐色粒子中量、φ10mmの褐色ブロック多量、φ1～3mmの褐色粒子少量
- 4層 色調：10YR3/2(黒褐色) しまり：あり 粘性：なし
含有物：φ1～2mmの褐色粒子少量、φ1～2mmの赤褐色粒子少量
- 5層 色調：10YR2/1(黒色) しまり：強い 粘性：若干あり
含有物：φ3～5mmの褐色粒子微量、φ1～2mmの赤褐色粒子少量
- 6層 色調：10YR2/3(黒褐色) しまり：強い 粘性：強い
含有物：φ1～3mm大の赤褐色粒子少量、φ10mmの褐色ブロック微量、φ1～3mmの褐色粒子少量

SX02 (SPB-SPB')

- 1層 色調：10YR3/3(暗褐色) しまり：強い 現代の攪乱の影響を受けている。 粘性：なし
含有物：φ2～3mmの黒褐色粒子少量、φ2～3mmの赤褐色粒子少量、φ10～15mmの褐色ブロック微量、φ10mmの赤褐色ブロック微量
- 2層 客土。色調：10YR5/6(黄褐色) しまり：あり 現代の攪乱の影響を受けている。 粘性：若干あり。
含有物：植物の枝が入り込みφ1～5cmの小礫を含む。
- 3層 色調：10YR3/2(黒褐色) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ2mmの赤褐色粒子微量、φ1～3mmの褐色粒子少量、φ2～3mmの黒褐色粒子少量
- 4層 色調：10YR3/1(黒褐色) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ3～5mmの褐色粒子少量、φ5mmの赤褐色粒子微量、φ3mmの黒褐色粒子少量
- 5層 色調：10YR4/1(褐灰色) しまり：強い 削ると若干の光沢あり。粘性：なし 含有物：φ3～5mmの褐色粒子多量、φ1～2mmの赤褐色粒子中量、φ1mmの黒褐色粒子少量、φ10mmの褐色ブロック少量
- 6層 色調：10YR3/3(暗褐色) しまり：強い 粘性：ややあり 含有物：φ1～3mmの褐色粒子多量、φ10～20mmの褐色ブロック中量、φ1～3mmの赤褐色粒子中量
- 7層 色調：10YR3/1(黒褐色) しまり：強い 粘性：強い
含有物：φ1～3mmの褐色粒子少量、φ1～3mmの赤褐色粒子多量、φ10mmの褐色ブロック微量 部分的に斑土壤を呈す。
<自然堆積>

第12図 第2号周溝状遺構実測図 (SX02)



第13図 第2号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX02)

第3表 第2号周溝状遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|------------|-----------|--------------------------|-------|-------------|-------------|--------------------------|----|-------------|-----------------|--------------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 13-1 10-1 | SX02 | 土師器 壺 | 胴部 | — | 93.6 | 外面 | 縦ハケ→横ハケ | φ1mm以下白色粒子微量 | 良 | 外面 | にぶい、橙(5YR6/4) | 外面:赤彩 |
| 内面 | | | | | | ナデ(横) | 内面 | | | 褐灰(5YR5/1) | | |
| 13-2 10-2 | SX02 | 土師器 小型壺 | 胴部～ 底部 | — — 5.3 | 101.6 | 外面 | ナデ(縦) ナデ(横) | φ1mm砂粒多量 φ1mm以下白色粒子少量 | 普通 | 外面 | にぶい、黄橙(10YR7/4) | 内面:炭化物 付着 |
| 内面 | | | | | | ナデ(横) | 内面 | | | 褐灰(10YR5/1) | | |
| 13-3 10-3 | SX02 | 陶器 すり鉢 | 胴部～ 底部 | — | 96.2 | 外面 | 体部回転ナデ | φ1～2mm砂粒少量 | 良 | 橙(5YR7/6) | | 中世 産地不明 |
| 内面 | | | | | | 8本を1単位とする櫛目 | | | | | | |

第3号周溝状遺構—SX03

遺構 (第14図 図版4-5)

位置：A～D-11・12グリッド。重複関係：SD03に切られている。平面形・規模：調査区2の西壁から北東に伸び北壁で南東に折れ東壁に伸びる。遺構の両端が調査区外に伸びているため、全体形状は不明である。周溝中には、長楕円又は隅丸長方形の土坑状の掘り込みが見られる。長6.24m、上端幅が0.90～1.30m、下端幅0.58～0.86m。確認面からの深さは0.45～0.79mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N-130°-E。覆土：3箇所覆土を観察した。12層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物 (第15図、第4表、図版10-4～6)

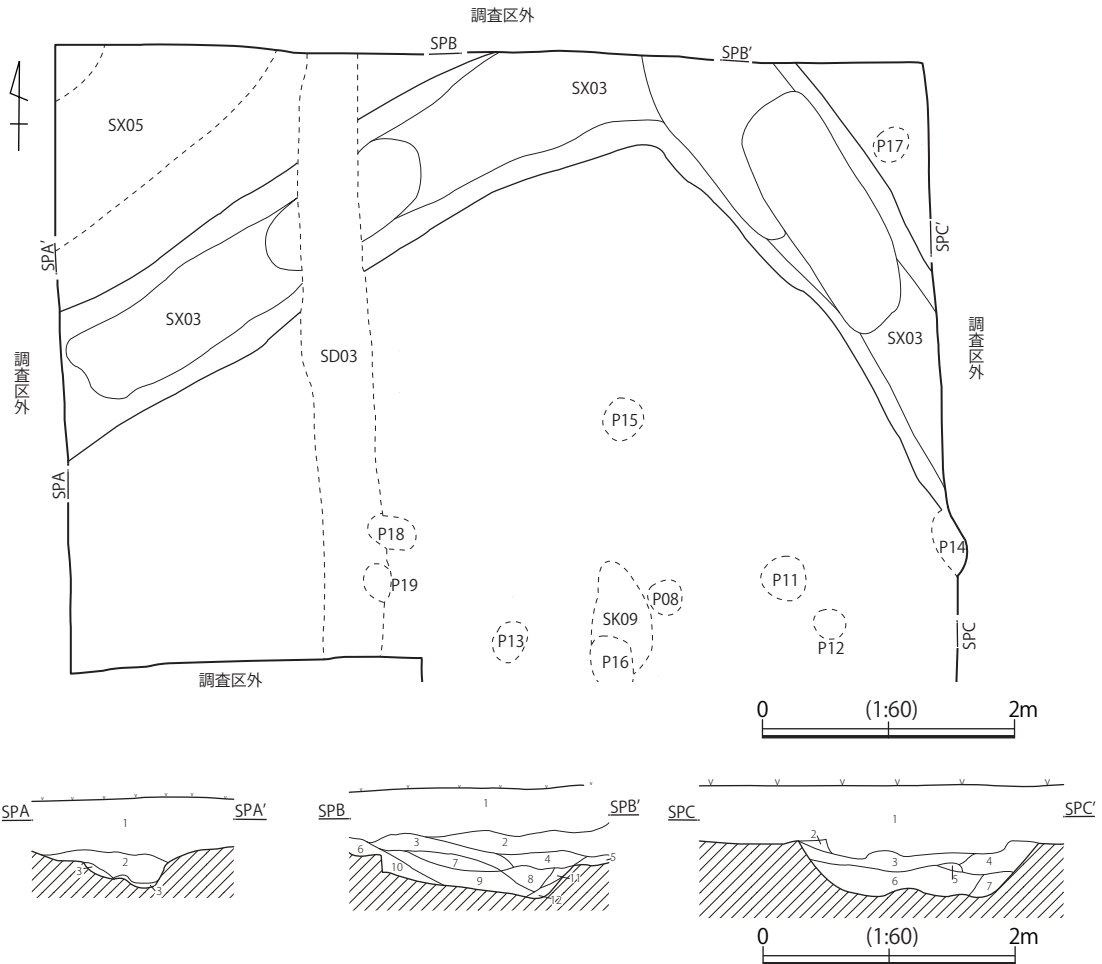
出土状況：本遺構からは、22点、246.8gの遺物が出土した。土師器20点、243.8g、須恵器2点、3gである。

時期

遺構形状及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭と考えられる。

第4号周溝状遺構—SX04

整理作業においてSX03と統合したため欠番



SX03 (SPA-SPA')

- 1層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:なし 粘性:若干あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子微量、φ5~10mmの赤褐色粒子微量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:若干あり 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ5~10mmの褐色粒子微量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR6/3(にぶい黄橙色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの黒褐色粒子微量、φ5~10mmの褐色ブロック多量、φ5~10mmの黒褐色ブロック少量、斑土壤を示し、黄橙色+黒褐色ブロック、褐色ブロックの状況である

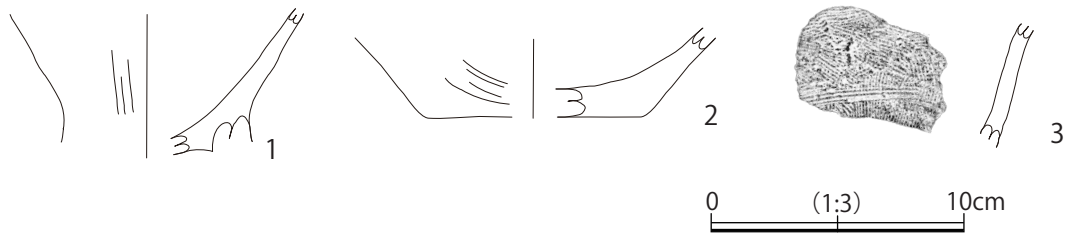
SX03 (SPB-SPB')

- 1層 表土攪乱層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ5~10mmの礫少量、既存建物解体時のガラを含む
- 2層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~2mmの褐色粒子少量
- 4層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ3~5mmの赤褐色粒子中量、φ10mmの褐色ブロック少量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ10mmの褐色ブロック少量(部分的に斑土壤)、φ5mmの褐色粒子少量
- 6層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子中量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 7層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ5mmの褐色粒子微量、φ1mmの褐色粒子微量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量
- 8層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1mmの赤褐色粒子多量、φ1~3mmの褐色粒子中量
- 9層 色調:10YR2/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~5mmの褐色粒子中量、φ3~5mmの黒褐色粒子微量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量
- 10層 色調:2.5Y5/4(黄褐色) しまり:なし 粘性:若干あり 含有物:φ1~3mmの褐色粒子多量、φ1~3mmの赤褐色粒子中量
- 11層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの褐色粒子少量、φ5~10mmの褐色ブロック少量
- 12層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ5~10mmの黒褐色ブロック微量、φ3~5mmの褐色粒子多量、φ1mmの赤褐色粒子微量<自然堆積か>

SX03(SPC-SPC')

- 1層 表土攪乱層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ5~10mmの礫少量、既存建物解体時のガラを含む
- 2層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR3/4(暗褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 4層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:あり 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子中量、φ1~3mmの褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子微量
- 6層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ5~10mmの褐色ブロック中量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量
- 7層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:あり 含有物:φ5~10mmの褐色ブロック少量、φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量

第14図 第3号周溝状遺構実測図 (SX03)



第 15 図 第 3 号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX03)

第 4 表 第 3 号周溝状遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|------------|-----------|--------------------------|-------|----------|---------|---|----|----------------|--------------|----------------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 15-1 10-4 | SX03 | 土師器 台付甕 | 底部～ 胴部 | — | 75.5 | 外面 | 横ハケ→縦ハケ | φ1～3mm白色粒少量 φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下赤色粒子微量 | 良 | 外面 | 灰褐(7.5YR4/2) | 底部内面: 炭化物付着 |
| 内面 | | | | | | ナデか | 内面 | | | 褐灰(7.5YR4/1) | | |
| 15-2 10-5 | SX03 | 土師器 鉢か | 底部～ 胴部 | — | 69.3 | 外面 | ハケ(斜め) | φ1mm白色粒少量 φ1mm赤色粒少量 φ1mm以下白色粒子少量 | 普通 | 外面 | 灰白(10YR8/1) | 蓋の可能性あり |
| 内面 | | | | | | ナデ(横)か | 内面 | | | にぶい褐(7.5YR6/3) | | |
| 15-3 10-6 | SX03 | 土師器 甕 | 胴部 | — | 25.0 | 外面 | 縦ハケ→横ハケ | φ1mm以下雲母片微量 φ1mm以下白色粒子微量 | 普通 | 外面 | 灰褐(7.5YR4/2) | |
| 内面 | | | | | | ナデ | 内面 | | | 褐灰(5YR4/1) | | |

第 5 号周溝状遺構—SX05

遺構 (第 16 図 図版 4-6)

位置：A・B-11 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：調査区 2 の西壁から北東に北壁まで伸びる。遺構の両端が調査区外に伸びているため、全体形状は不明である。検出された長さ 1.74m、上端幅が 0.86～1.00m、下端幅 0.20～0.28m。確認面からの深さは 1.07m である。断面形状は、底部が逆台形で上部が開いている。

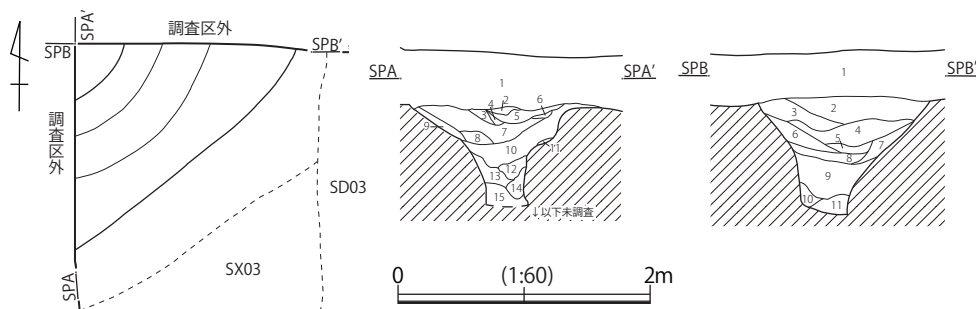
主軸方位：不明。覆土：2 箇所覆土を観察した。15 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物 (第 17 図、第 5 表)

出土状況：本遺構からは、6 点、104.5 g の遺物が出土した。いずれも土師器で弥生時代後半から古墳時代前期初頭に属すると考えられる。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭と考えられる。



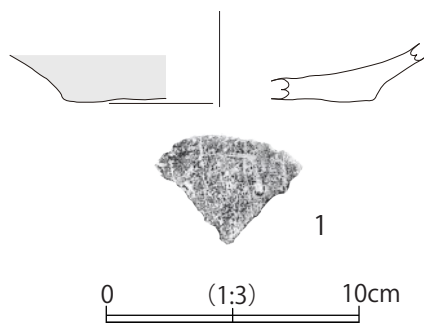
SX05(SPA-SPA')

- 1層 表土攪乱層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ5~10mmの礫少量、既存建物体時のガラを含む
- 2層 色調:10YR5/4(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子多量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 3層 色調:10YR4/4(褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ3~5mmの黒褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子微量
- 4層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~5mmの黒褐色粒子少量、φ1~3mmの褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~5mmの赤褐色粒子少量
- 6層 色調:10YR6/4(にぶい黄橙色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子多量、φ5mmの黒褐色ブロック微量
- 7層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子中量、φ1~3mmの褐色粒子多量、φ5~10mmの黒褐色ブロック少量
- 8層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:若干あり 含有物:φ1~3mmの褐色粒子多量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量、φ10mmの褐色ブロック微量
- 9層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子多量、φ1~5mmの赤褐色粒子中量
- 10層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:あり 粘性:強い 含有物:φ5~10mmの赤褐色ブロック少量、φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量
- 11層 色調:10YR5/4(にぶい黄褐色) しまり:若干あり 粘性:若干あり 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子中量、φ1~3mmの褐色粒子少量
- 12層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:弱い 粘性:あり 含有物:φ10mmの褐色ブロック中量、φ5~10mmの赤褐色ブロック中量、φ1~5mmの褐色粒子、赤色粒子少量、φ1~3mmの黒褐色粒子微量
- 13層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ3~5mmの褐色粒子中量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの黒褐色粒子少量
- 14層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ5~10mmの黒褐色ブロック多量、φ5mmの赤褐色粒子中量、φ5~10mmの褐色ブロック少量
- 15層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:弱い 粘性:あり 含有物:φ1~5mmの褐色粒子中量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子微量

SX05 (SPB-SPB')

- 1層 表土攪乱層 (SPA-SPA'1層と同じ)
- 2層 色調:10YR6/4(にぶい黄橙色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1mmの黒褐色粒子微量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 3層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 4層 色調:10YR6/3(にぶい黄橙色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~5mmの褐色粒子中量、φ5~10mmの黒褐色ブロック少量
- 5層 色調:10YR4/4(褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子多量、φ10mmの褐色ブロック微量
- 6層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:若干あり 含有物:φ1~2mmの褐色粒子中量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 7層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ3~5mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの黒褐色粒子微量
- 8層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 9層 色調:10YR2/3(黒褐色) しまり:あり 粘性:強い 含有物:φ10~20mmの褐色ブロック多量、φ3~5mmの黒褐色粒子少量
- 10層 色調:10YR5/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:強い 含有物:φ1~5mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量
- 11層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~5mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量

第16図 第5号周溝状遺構実測図 (SX05)



第17図 第5号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX05)

第5表 第5号周溝状遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|----------|-----------|--------------------------|-------|----------|---------|----------------------------|----|-------------|----------------|----|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 17-1 | SX05 | 土師器 壺 | 底部～ 胴部 | — | 53.7 | 外面 | ヘラナデ(横) | φ1～3mm小礫多量 φ1mm以下白色粒子微量 | 普通 | 外面 | にぶい黄橙(10YR6/3) | |
| 10-7 | | | | 内面 | | ナデ(横) | 内面 | | | 褐灰(10YR5/1) | | |

2 土坑

第4号土坑—SK04

遺構(第18図 図版5-6、7)

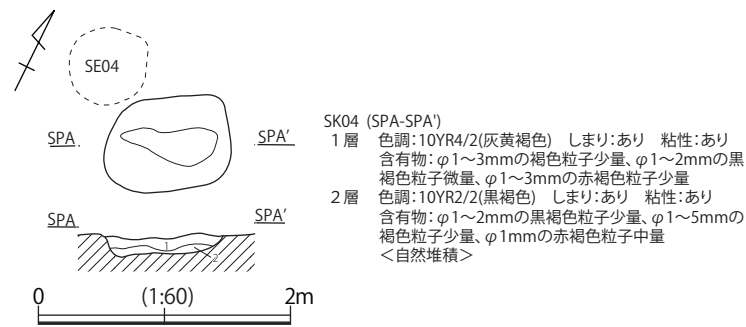
位置：E-5・6グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：楕円形を呈する。長軸1.00m、短軸0.63m、深さは0.22mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：N-40°-E。
覆土：1箇所で覆土を観察した。2層に分層し、多量の土器片が出土していることから人為的に廃棄された土器が埋め戻されたと考えられる。

遺物(第19図、第6表、図版10-1、11-1～4)

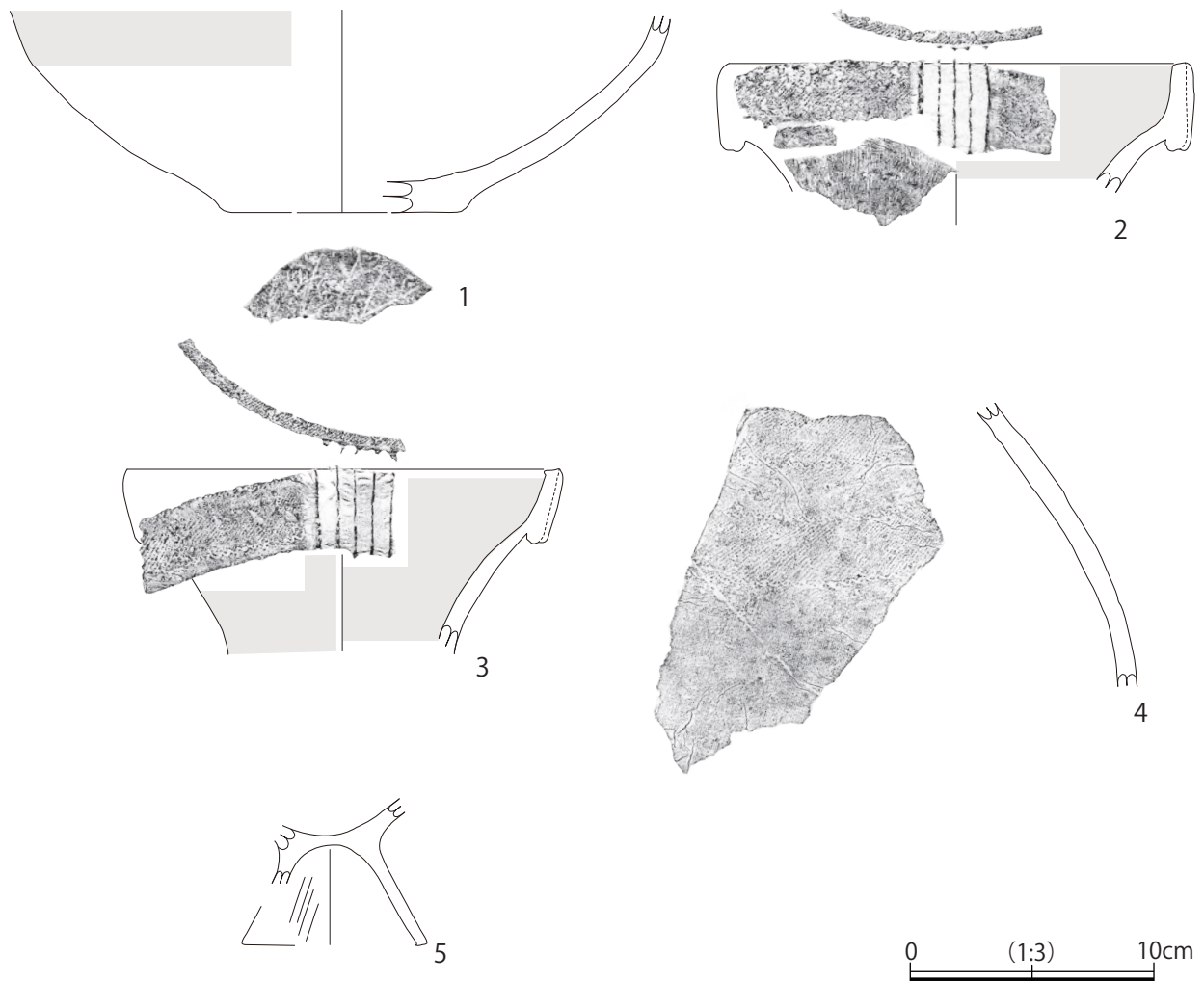
出土状況：本遺構からは、70点、2655.6gが出土している。全て土師器である。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭



第18図 第4号土坑実測図 (SK04)

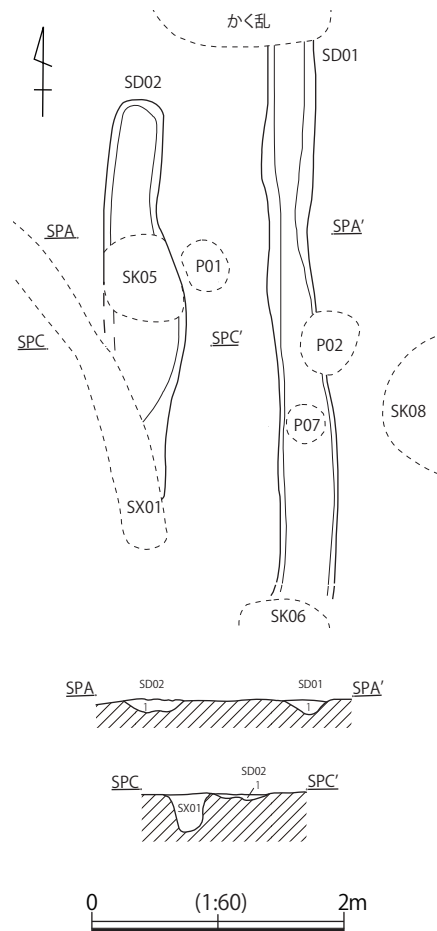


第19図 第4号土坑出土遺物実測図 (SK04)

第6表 第4号土坑出土遺物観察

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|------------|-----------|--------------------------|-------|----------|--|----|----|--|-------------------|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | |
| 19-1 | SK04 | 土師器 壺 | 胴部～ 底部 | — | 261.9 | 外面 | ヘラミガキ | 良 | 外面 | にぶい橙(7.5YR6/4) | 外面: 赤彩 底面: 木葉痕 |
| 10-8 | | | | | | 内面 | ナデ(横) | | 内面 | にぶい褐(7.5YR5/3) | |
| 19-2 | SK04 | 土師器 壺 | 口縁部 | — | 85.2 | 外面 | 粘土帯貼付。縄文RLの施文 5条の棒状浮文 頸部ハケメ(縦) | 良 | 外面 | 非赤彩 にぶい橙 (7.5YR6/4) 赤彩 赤褐(10R4/4) | 内外面: 赤彩 |
| 11-1 | | | | | | 内面 | ハケメ(横)→ナデ(横) | | 内面 | 非赤彩 にぶい橙 (7.5YR6/4) 赤彩 赤褐(10R4/4) | |
| 19-3 | SK04 | 土師器 壺 | 口縁部 | — | 98.3 | 外面 | 口縁部 粘土帯貼付。縄文LR 施文 口縁部下方にS字状結 節文 5条の棒状浮文 頸部ハケメ(縦) 赤彩 | 良 | 外面 | 非赤彩 にぶい橙 (7.5YR6/4) 赤彩 赤(10R6/4) | 内外面: 赤彩 |
| 11-2 | | | | | | 内面 | 口唇部縄文LR施文 内面赤彩 ナデ(横) | | 内面 | 非赤彩 黒褐(5YR3/1) 赤彩 にぶい赤褐 (2.5YR4/4) | |
| 19-4 | SK04 | 土師器 壺 | 胴部 | — | 158.1 | 外面 | S字状結節文 縄文LRの施文 | 良 | 外面 | にぶい橙(7.5YR6/4) | 外面: 赤彩 |
| 11-3 | | | | | | 内面 | ナデか | | 内面 | にぶい橙(5YR6/4) | |
| 19-5 | SK04 | 土師器 台付甕 | 底部～ 脚部 | — | 74.4 | 外面 | ハケメ(縦) | 良 | 外面 | にぶい橙(7.5YR6/4) | |
| 11-4 | | | | | | 内面 | ハケメ(横) | | 内面 | にぶい褐(7.5YR5/4) | |

第2節 その他の遺構と遺物



SD01(SD02)(SPA-SPA')

1層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:強い
粘性:なし
含有物:φ5mmの赤褐色粒子微量、φ2~3mmの褐色粒子中量、φ2~5mmの黒褐色粒子少量

SD02(SD01)(SPA-SPA')

1層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:強い
粘性:なし 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ2~3mmの褐色粒子中量
<SD01,SD02共に自然堆積>

第20図 第1・2号溝状遺構 (SD01・SD02)

第2号溝状遺構—SD02

遺構 (第20図 図版4-7)

位置: D-2・3グリッド。重複関係: SX01を切り、SK05に切られている。平面形・規模: 南北に直線状に伸びる。南端はSX01を切っている。残存している長さ3.2m、上端幅が0.40~0.64m、下端幅0.29~0.50m。確認面からの深さは0.05~0.23mである。断面形状は、浅い皿形である。主軸方位: N-2°-W。覆土: 2箇所覆土を観察した。1層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況: 本遺構からは、13点、38.0gの遺物が出土した。いずれも弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器である。紙幅の都合上図示できなかった。

1 溝状遺構

第1号溝状遺構—SD01

遺構 (第20図 図版4-7)

位置: E-2~4グリッド。重複関係: P02を切り、P07に切られている。平面形・規模: 南北に直線状に伸びる。北端はかく乱に破壊されており、南端は残りが悪く不明であるが、SK06とは切り合い関係にない。残存している長さ4.3m、上端幅が0.30~0.47m、下端幅0.11~0.38m。確認面からの深さは0.10~0.20mである。断面形状は、浅い皿形である。SD1、SD2及びSD3は、いずれも南北方向に伸び、ほぼ平行している。主軸方位: N-3°-W。覆土: 2箇所覆土を観察した。1層に分層し、自然堆積であると考えられる。SD1及びSD2は、断面形状、堆積状況が近いことから同時期に所属することが想定される。

遺物

出土状況: 本遺構からは、15点、60.4gの遺物が出土している。土師器14点、57.4g、須恵器1点、3gである。紙幅の都合上図示できなかった。

時期

出土遺物から、平安時代から中世か。

時期

遺構の形状、土層の堆積状況から平安時代から中世に相当すると考えられる。

第3号溝状遺構—SD03

遺構（第21図 図版4-8）

位置：C-2～4グリッド B-11～13グリッド。重複関係：断面図を作成していないため平面図からの判断であるが、SX01を切っている。平面形・規模：南北に直線状に伸びる。残存している長さは、調査区1部分5.40m、調査区2部分4.80m、上端幅が調査区1で0.34～0.54m、調査区2で0.44～0.55m、下端幅は、調査区1で0.08～0.12、調査区2で0.05～0.06m。確認面からの深さは0.84mである。断面形状は、U字状である。主軸方位：N-4～8°-W。覆土：5箇所覆土を観察した。6層に分層し、自然堆積であると考えられる。SD03は、調査区1、2間で連続していないが、断面形状、土層の堆積状況から同一の溝と判断した。

遺物（第22図、第7表、図版11-5、6）

出土状況：本遺構からは、221点、1047.0gの遺物が出土している。土師器175点、828.5g、ロクロ土師器、3点、19.1g、須恵器40点、192.6g、陶器3点、6.8gである。いずれの土器も周囲からの流れ込みである。

時期

遺構及び出土遺物から、中近世。

第4号溝状遺構—SD04

遺構（第23図 図版5-1）

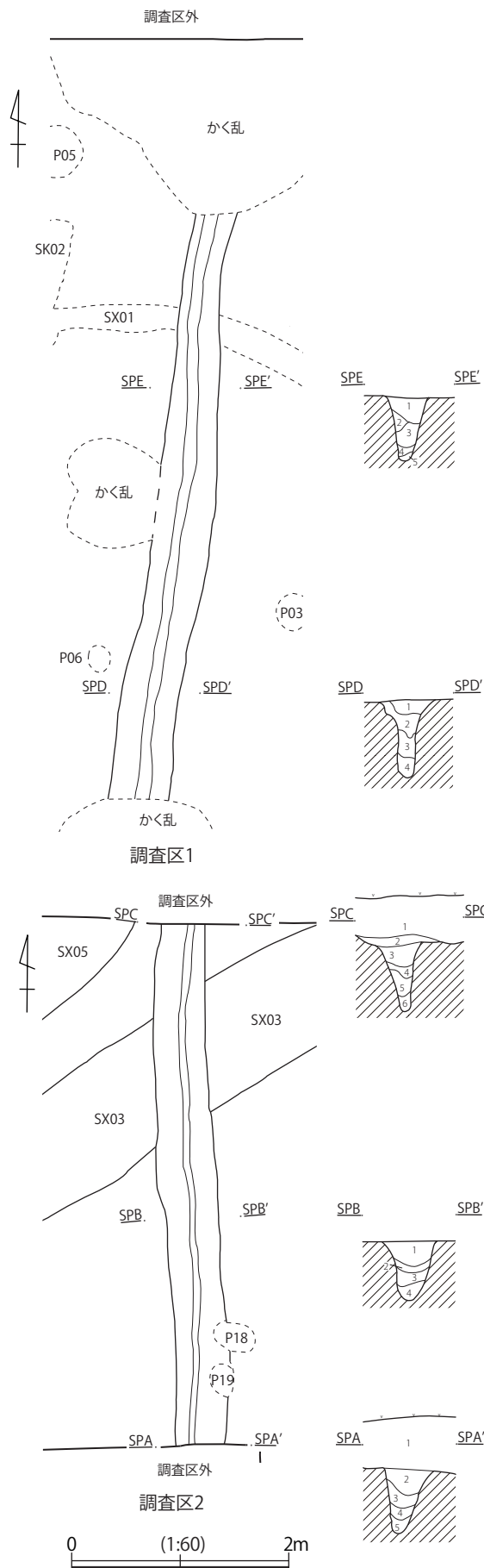
位置：H～K-11グリッド。重複関係：SK12、SK14、P24及びP25に切られている。平面形・規模：東西に直線状に伸びる。西端はSK12に切れ、東端は調査区外に伸びている。残存している長さ5.00m、上端幅0.28～0.92m、下端幅0.20～0.38。確認面からの深さは0.29mである。断面形状は、西側では浅い皿状を呈するが、東に向かい皿状になっている。主軸方位：N-95°-E。覆土：3箇所覆土を観察した。5層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

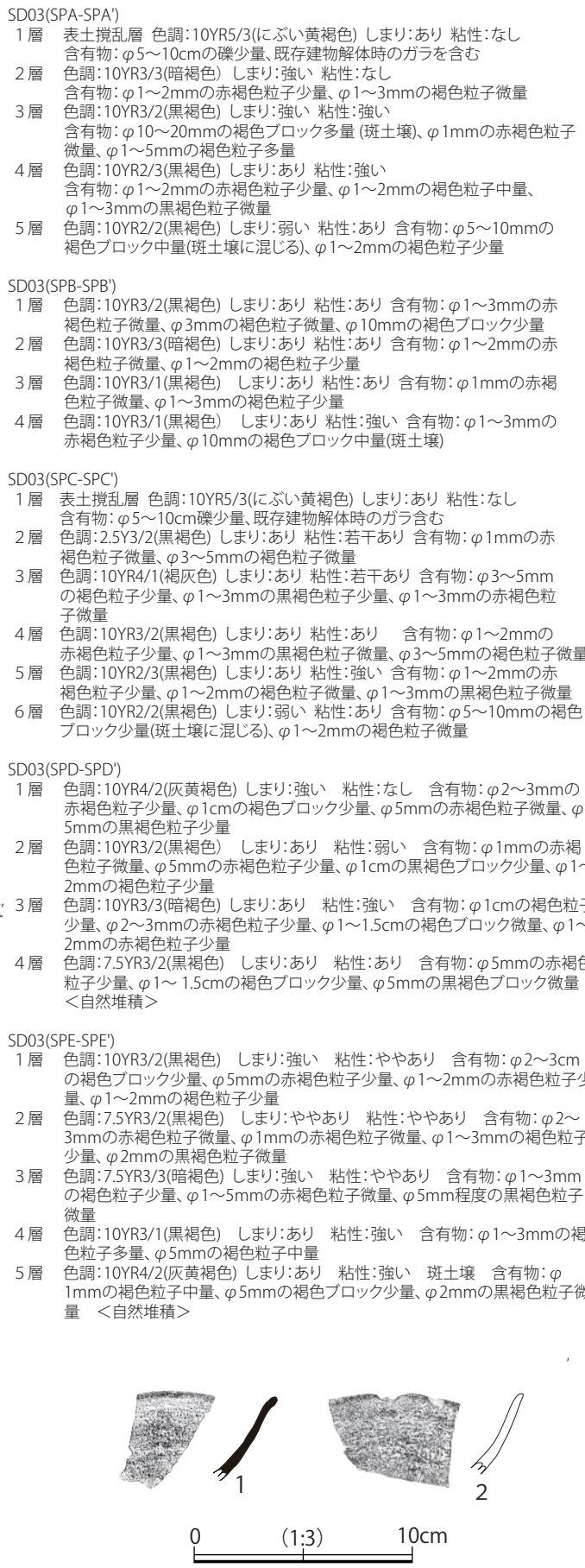
出土状況：本遺構からは、83点311.0gが出土している。土師器56点、135.5g、ロクロ土師器2点、42.2g、須恵器23点、117.0g、陶器2点、16.3gである。紙幅の都合上図示できなかった。

時期

遺構及び出土遺物から、平安時代から中世に相当すると考えられる。



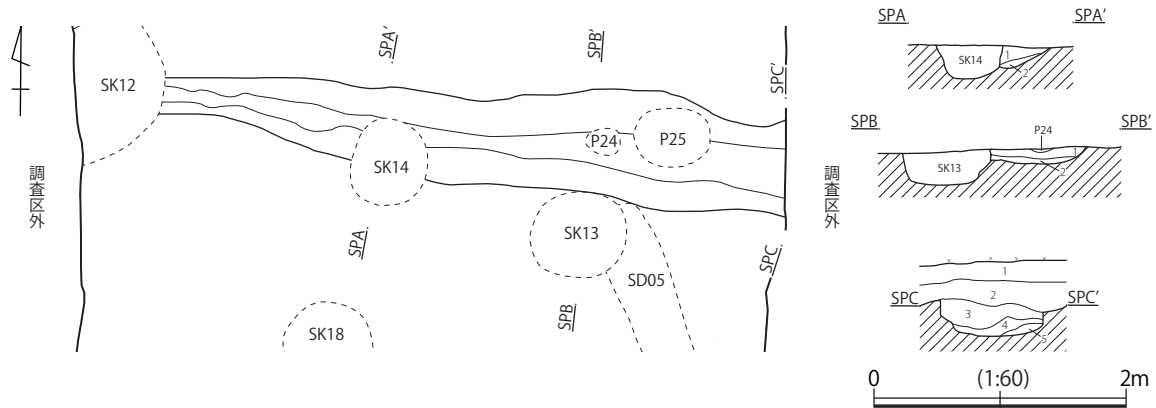
第 21 図 第 3 号溝状遺構実測図 (SD03)



第 22 図 第 3 号溝状遺構出土遺物実測図 (SD03)

第7表 第3号溝状遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------------|----------|----------|----------------|--------------------------|-------|----------|--------------------------------|----|-------------|------|
| 22-1 11-5 | SD03 | 須恵器 坏 | 口縁部 ～ 体部 | — | 8.4 | ロクロ成型 | φ1mm以下白色針状物質微量 φ1mm以下白色粒子微量 | 良 | 灰白(2.5Y7/1) | 南比企産 |
| 22-2 11-6 | | | | | | | | | | |



SD04(SPA-SPA')

- 1層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:なし
含有物:φ3~5mmの赤褐色粒子少量、φ10~15mmの褐色ブロック微量、φ3mmの褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子中量、φ1mmの黒褐色粒子少量、φ5~10mmの褐色粒子少量(斑土壤)

SD04(SPB-SPB')

- 1層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量

SD04 (SPC-SPC')

- 1層 表土攪乱層
- 2層 色調:10YR7/2(にぶい黄橙色) しまり:強い 粘性:なし 既存建物解体時の攪乱の影響を受けている、φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~5mmの黒褐色ブロック微量
- 3層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1mmの赤褐色粒子微量
- 4層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量
- 5層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの褐色粒子中量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量

第23図 第4号溝状遺構実測図 (SD04)

第5号溝状遺構—SD05

遺構 (第24図 図版5-1)

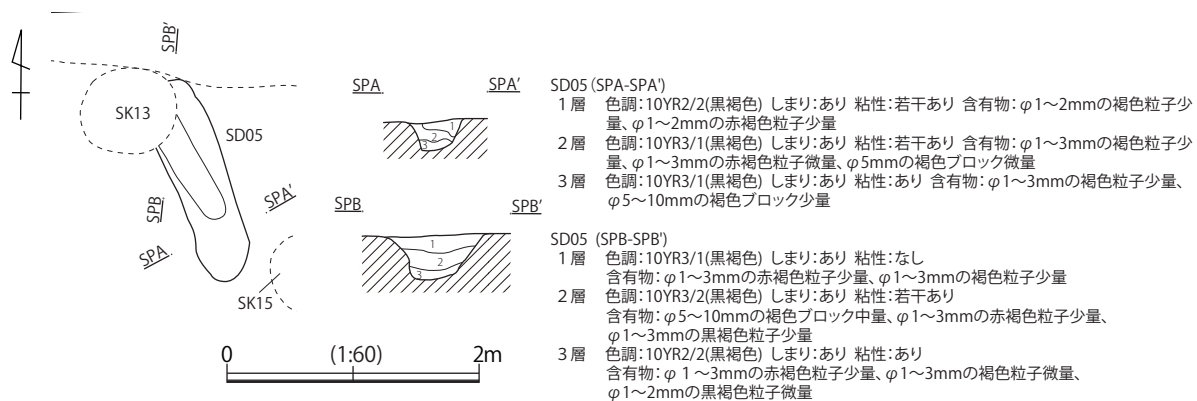
位置:J-11・12グリッド。重複関係:SK13に切られている。平面形・規模:長楕円形を呈し、北端はSK13に切られている。長さ1.68m、上端幅0.40~0.50m、下端幅0.18~0.40。確認面からの深さは0.54mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位:N-30°-E。覆土:2箇所覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況:本遺構からは、8点、40.1gの遺物が出土した。いずれも弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器である。破片資料であり、周囲からの流れ込みと考えられる。

時期

平安時代以降と考えられる。



第 24 図 第 5 号溝状遺構実測図 (SD05)

2 土坑

第 1 号土坑—SK01

遺構 (第 25 図 図版 5-2、3)

位置:D・E-4グリッド。重複関係:SK06に切られている。平面形・規模:隅丸方形を呈する。北東端はSK06に切られている。長軸1.00m、短軸0.96m、深さは0.30mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位:N-5°-E。覆土:1箇所覆土を観察した。1層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物 (第 26 図、第 8 表、図版 11-7)

出土状況:本遺構からは、61点、404.3gが出土している。土師器42点、117.1g、ロクロ土師器7点、190.3g、須恵器10点、74.4g、石2点、22.5gである。

時期

平安時代と考えられる。

第 2 号土坑—SK02

遺構 (第 25 図 図版 5-4)

位置:B-2グリッド。重複関係: SX01を切っている。平面形・規模:隅丸長方形を呈する。長軸0.90m、短軸0.50m、深さは0.43mである。断面形状は、皿状である。主軸方位:N-17°-E。覆土:1箇所覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況:本遺構からは、17点、59.9gが出土している。土師器14点、43.8g、ロクロ土師器1点、2.4g、須恵器2点、13.7gである。紙幅の都合で図示できなかった。

時期

遺構及び出土遺物から、平安時代と考えられる。

第 3 号土坑—SK03

遺構 (第 25 図 図版 5-5)

位置:B-3・4グリッド。重複関係:なし。平面形・規模:楕円形を呈する。長軸0.80m、

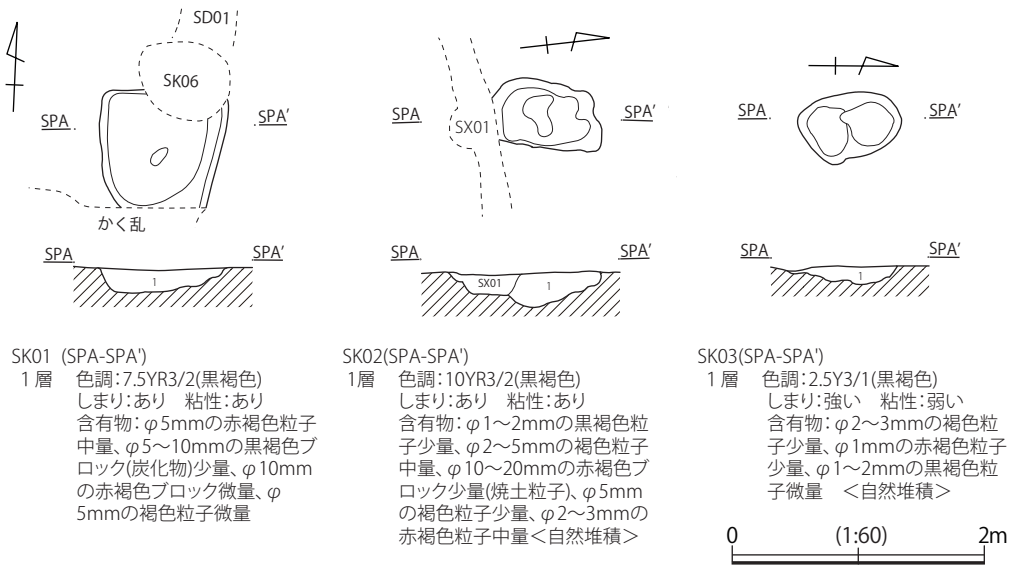
短軸 0.40m、深さは 0.22m である。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：N - 10° - W。
 覆土：1 箇所で覆土を観察した。1 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

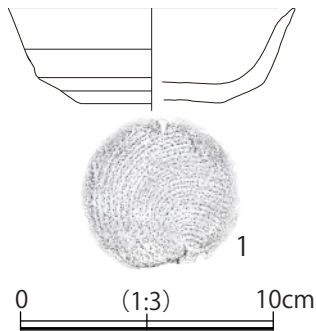
出土状況：本遺構からは、10 点、23.8 g が出土している。土師器 9 点、17.1 g、ロクロ土師器 1 点、6.7 g である。

時期

遺構及び出土遺物から、平安時代と考えられる。



第 25 図 第 1・2・3 号土坑実測図 (SK01・SK02・SK03)



第 26 図

第 1 号土坑出土遺物実測図(SK01)

第 8 表 第 1 号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------------|----------|-----------------|------------|--------------------------|-------|-------------------------|---|----|-----------------|----|
| 26-1 | SK01 | ロクロ 土師器 坏 | 底部~ 口縁部 | — | 87.1 | ロクロ成形 回転糸切後外周回転ヘラケズリ | φ1mm以下雲母片微量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量 | 普通 | にぶい、褐(7.5YR6/3) | |
| 11-7 | | | | 3.7 6.1 | | | | | | |

第 5 号土坑—SK05

遺構（第 27 図 図版 5－8）

位置：D－2・3 グリッド。重複関係：SD02 を切る。平面形・規模：楕円形を呈する。長軸 1.00m、短軸 0.63m、深さは 0.22m である。断面形状は、U 字状である。主軸方位：N－40°－E。

覆土：箇所ので覆土を観察した。2 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第 28 図、第 9 表、図版 11－8）

出土状況：本遺構からは、59 点、203.0 g が出土している。土師器 48、93.1g、ロクロ土師器 6 点、42.4g、須恵器 4 点、43.4g、礫 1 点 24.1g である。

時期

出土遺物から、平安時代に相当すると考えられる。

第 6 号土坑—SK06

遺構（第 27 図 図版 5－2）

位置：E－4 グリッド。重複関係：SK01 を切っている。平面形・規模：楕円形を呈する。長軸 0.78m、短軸 0.60m、深さは 0.52m である。断面形状は、逆台形状を呈し、中央が深く彫り込まれている。主軸方位：N－45°－W。覆土：1 箇所ので覆土を観察した。3 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第 29 図、第 10 表、図版 12－1、2）

出土状況：本遺構からは、19 点、315.2 g が出土している。土師器 11 点、30.5g、ロクロ土師器 1 点、5g、須恵器 6 点、52.8g、礫 226.9g である。

時期

出土遺物から、平安時代に相当すると考えられる。

第 7 号土坑—SK07

遺構（第 27 図 図版 6－1、2）

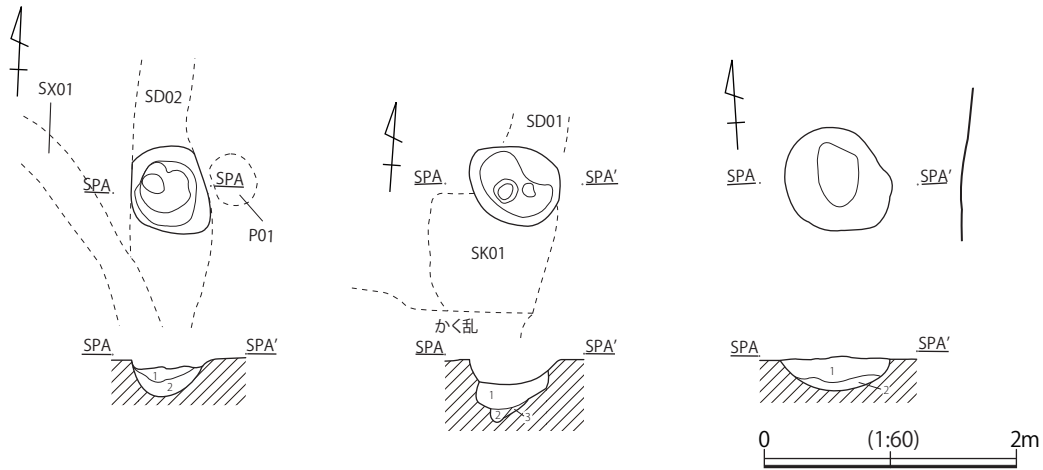
位置：F・G－3・4 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：円形を呈する。長軸 0.90m、短軸 0.66m、深さは 0.29m である。断面形状は、椀形状である。主軸方位：N－45°－W。覆土：1 箇所ので覆土を観察した。2 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第 30 図、第 11 表、図版 12－3、4）

出土状況：本遺構からは、10 点、121.4 g が出土している。土師器 6 点、34.4g、須恵器 4 点、87.0g である。

時期

出土遺物から、平安時代に相当すると考えられる。



SK05 (SPA-SPA')

- 1層 色調:10YR2/3(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ10mmの赤褐色ブロック少量、φ2~5mmの赤褐色粒子少量、φ5mmの黒褐色粒子少量、φ2~5mmの褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:強い
含有物:φ2~5mmの赤褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子少量、φ5~10mmの褐色ブロック微量 <自然堆積>

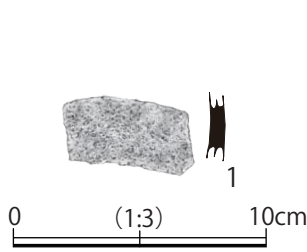
SK06 (SPA-SPA')

- 1層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ2~5mmの褐色粒子少量、φ3~5mmの黒褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 3層 色調:10YR5/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:強い
含有物:φ2~5mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量、φ2~3mmの赤褐色粒子微量

SK07 (SPA-SPA')

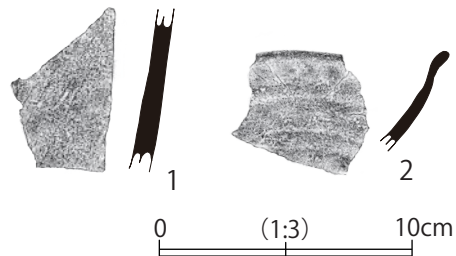
- 1層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ5mmの褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1mmの赤褐色粒子中量、φ5~10mmの褐色粒子中量、黒色土と混じり斑土壤である。

第 27 図 第 5・6・7 号土坑実測図 (SK05・SK06・SK07)



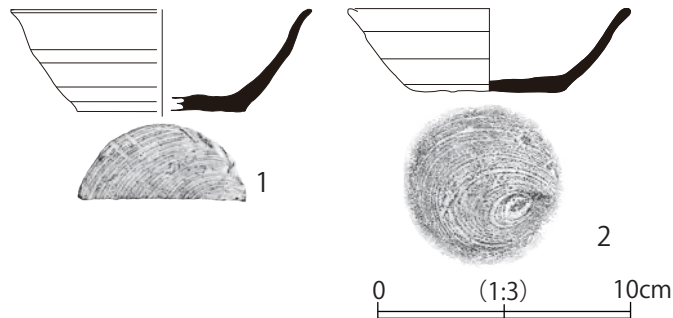
第 28 図

第 5 号土坑出土遺物実測図(SK05)



第 29 図

第 6 号土坑出土遺物実測図(SK06)



第 30 図 第 7 号土坑出土遺物実測図 (SK07)

第9表 第5号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径器高 器高底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|------|----|------------------------|-------|----------|--|----|-------------|------|
| 28-1 | SK05 | 須恵器 | 不明 | - | 16.4 | | φ1mm石英微量 φ1mm以下白色針状物質少量 φ1mm以下白色粒子微量 | 良 | 灰白(2.5Y7/1) | 南比企産 |
| 11-8 | | | | | | | | | | |

第10表 第6号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径器高 器高底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|-----------|------------|------------------------|-------|----------|--------------------------------|----|------------|---------------|
| 29-1 | SK06 | 須恵器 甕か | 胴部か | - | 26.2 | 外面 タタキ | φ1mm以下白色粒子多量 | 良 | 灰(7.5Y5/1) | |
| 12-1 | | | | | | 内面 ナデ(横) | | | | |
| 29-2 | SK06 | 須恵器 坏 | 口縁部 ~体部 | - | 12.9 | ロクロ成形 | φ1mm以下白色針状物質中量 φ1mm以下白色粒子微量 | 普通 | 褐灰(5YR6/1) | やや酸化炎 焼成気味 |
| 12-2 | | | | | | | | | | |

第11表 第7号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径器高 器高底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|----------|------------|------------------------|-------|---------------------------------|-----------------------------|----|------------|----|
| 30-1 | SK07 | 須恵器 坏 | 口縁部 ~底部 | [11.8] 3.9 [6.7] | 74.9 | ロクロ成形 底部回転糸切 | φ1~2mm白色粒少量 φ1mm以下白色粒子微量 | 良 | 灰(N5/) | |
| 12-3 | | | | | | | | | | |
| 30-2 | SK07 | 須恵器 坏 | 口縁部 ~底部 | 11.4 3.3 6.0 | 103.5 | ロクロ成形 底部回転糸切後底部外周回転ヘラ ケズリ | φ1~5mm小礫少量 φ1mm以下白色粒子中量 | 良 | 灰(7.5Y5/1) | |
| 12-4 | | | | | | | | | | |

第8号土坑—SK08

遺構(第31図)

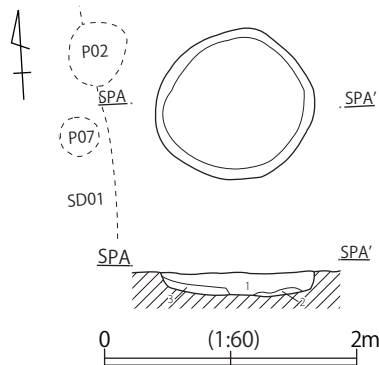
位置：E・F—3グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：円形を呈する。長軸1.27m、短軸1.18m、深さは0.24mである。断面形状は、浅い皿形状である。主軸方位：N—0°—W。覆土：1箇所覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物(第32図、第12表、図版12—5)

出土状況：本遺構からは、26点、123.2gが出土している。土師器20点、82.6g、須恵器6点、40.6gである。

時期

遺構及び出土遺物から、平安時代に相当すると考えられる。



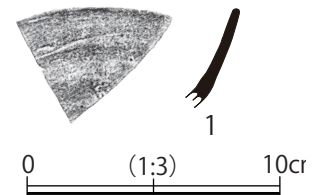
第31図 第8号土坑実測図(SK08)

SK08 (SPA-SPA')

1層 色調：10YR3/2(黒褐色)
しまり：あり 粘性：若干あり
含有物：φ10mmの赤褐色粒子少量、
φ5~10cmの褐色ブロック少量、φ2~
3mmの褐色粒子中量、φ5mmの黒褐色
粒子微量

2層 色調：10YR5/1(褐灰色)
しまり：若干あり 粘性：あり
含有物：φ1~2mmの赤褐色粒子中量、
φ2~5mmの褐色粒子少量

3層 色調：10YR2/1(黒色)
しまり：あり 粘性：あり
含有物：φ2~3mmの褐色粒子少量、
φ1~2mmの赤褐色粒子少量



第32図 第8号土坑
出土遺物実測図(SK08)

第12表 第8号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|----------|------------|--------------------------|-------|----------|--------------|----|-----------|----|
| 32-1 | SK08 | 須恵器 坏 | 口縁部 ～体部 | — | 14.6 | ロクロ成形 | φ1mm以下白色粒子多量 | 良 | 青灰(5B6/1) | |
| 12-5 | | | | | | | | | | |

第9号土坑—SK09

遺構 (第33図 図版6-3)

位置：C-13グリッド。重複関係：P16に切られている。平面形・規模：楕円形を呈する。南端をP16に切られている。長軸0.98m、短軸0.48m、深さは0.39mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：N-5°-W。覆土：1箇所覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積である。

遺物

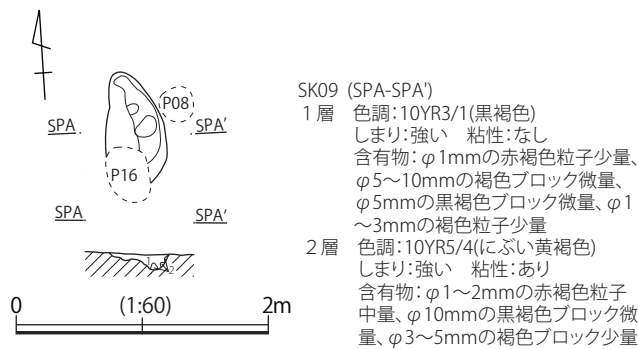
出土状況：本遺構からは、26点、123.2gが出土している。土師器20点、82.6g、須恵器6点、40.6gである。紙幅の都合で図示できなかった。

時期

出土遺物から、平安時代と考えられる。

第10号土坑—SK10

整理作業においてSK21としたため欠番



第33図 第9号土坑実測図 (SK09)

第 11 号土坑—SK11

遺構（第 34 図 図版 6－4）

位置：I－10 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：楕円形を呈する。調査区 3 北壁に面している。長軸 0.70m、短軸 0.60m、深さは 0.80m である。断面形状は、不明である。主軸方位：N－55°－W。覆土：断面図を作成していない。

遺物

出土状況：本遺構からは、12 点、34.3 g が出土している。土師器 11 点、29.2 g、須恵器 1 点、5.1g である。紙幅の都合で図示できなかった。

時期

出土遺物から、平安時代と考えられる。

第 12 号土坑—SK12

遺構（第 34 図 図版 6－5）

位置：H－10・11 グリッド。重複関係：SD04 を切っている。平面形・規模：調査区 3 西壁に面しており、全体の形状は不明である。確認された部分で長さ 1.40m、深さは 0.44m である。断面形状は、皿形状である。主軸方位：不明。覆土：1 箇所覆土を観察した。6 層に分層し、自然堆積と考えられる。

遺物（第 35 図、第 13 表、図版 12－6）

出土状況：本遺構からは、土師器 10 点、92.3 g が出土している。

時期

切り合いの関係性から平安時代と考えられる。

第 13 号土坑—SK13

遺構（第 13 図 図版 6－6）

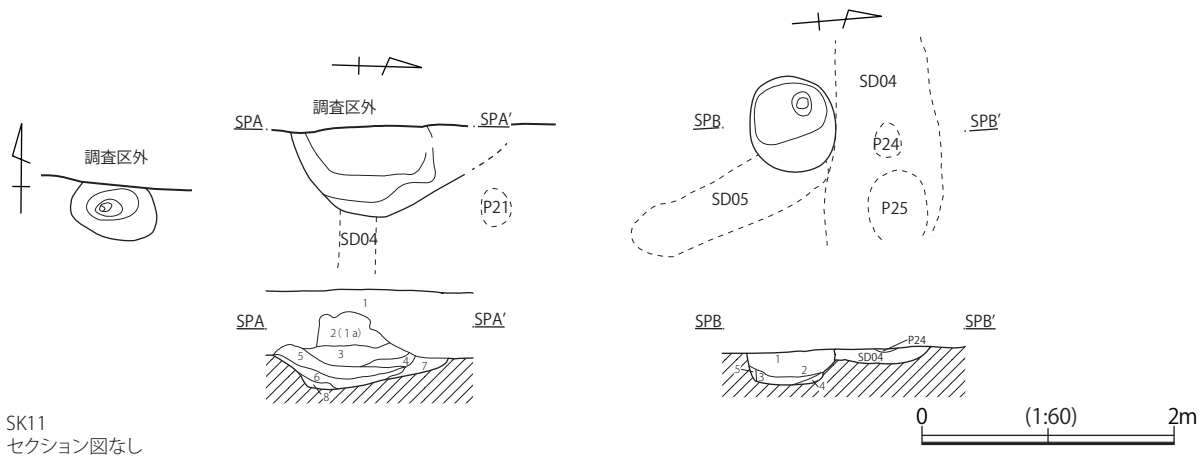
位置：J－11 グリッド。重複関係：SD04 を切り、SD5 との切り合いは不明である。平面形・規模：円形を呈する。径 0.56m、深さは 0.44m である。断面形状は、逆台形状である。覆土：1 箇所覆土を観察した。5 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器 8 点、37.4 g が出土している。紙幅の都合で図示できなかった。

時期

遺構の切り合いから平安時代から中世と考えられる。



SK11
セクション図なし

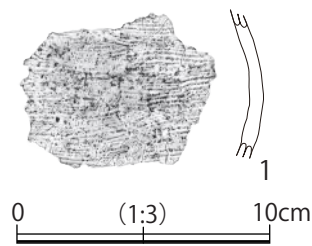
SK12 (SPA-SPA')

- 1層 表土攪乱層
- 2層 (1a)色調:10YR7/2(にぶい黄褐色) しまり:強い 粘性:なし 既存建物解体時の攪乱の影響を受けている。
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~5mmの黒褐色ブロック微量
- 3層 色調:10YR4/2(灰黄褐色) しまり:あり 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量
- 4層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~2mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~2mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 6層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ3~5mmの褐色ブロック少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 7層 地山に近い、色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:黒色土と混じり斑土壤
- 8層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:強い
含有物:φ1~3mmの褐色粒子多量、φ1~2mmの黒褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量

SK13(SPБ-SPB')

- 1層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 2層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子微量
- 4層 色調:10YR5/4(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ5~10mmの黒褐色ブロック少量、φ1~3mmの褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量

第34図 第11・12・13号土坑実測図 (SK11・SK12・SK13)



第35図 第12号土坑出土遺物
実測図 (SK12)

第13表 第12号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|----------|----|--------------------------|-------|----------|--------|------------------------------|----|----|--------------|----|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 35-1 | SK12 | 土師器 甕 | 胴部 | - | 37.0 | 外面 | ハケメ(横) | φ1~2mm赤色粒子微量 φ1mm以下白色粒子少量 | 良 | 外面 | 黒褐(7.5YR3/1) | |
| 12-6 | | | | | | 内面 | ヘラナデか | | | 内面 | 褐(7.5YR4/4) | |

第 14 号土坑—SK14

遺構（第 36 図 図版 6－7）

位置：I－11 グリッド。重複関係：SD04 を切っている。平面形・規模：円形を呈する。径 0.68m、深さは 0.54m である。断面形状は、逆台形状である。覆土：1 箇所覆土を観察した。3 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第 37 図、第 14 表、図版 12－7）

出土状況：本遺構からは、土師器 12 点、71.3 g が出土している。土師器 9 点、24.5 g、ロクロ土師器 1 点、6.1 g、須恵器 2 点、40.7 g

時期

遺構の切り合い及び出土遺物から、平安時代から中世と考えられる。

第 15 号土坑—SK15

遺構（第 36 図 図版）

位置：J・K－12 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：円形を呈する。径 0.60m、深さは 0.53m である。断面形状は、逆台形である。覆土：1 箇所覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積である。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

出土遺物はないが、遺構形状、土層の堆積状況から他の土坑と類似するため平安時代から中世に相当すると考えられる。

第 16 号土坑—SK16

遺構（第 36 図 図版 6－8）

位置：I－13 グリッド。重複関係：SK17 に切られている。平面形・規模：楕円形を呈する。長軸 0.94m、短軸 0.70m、深さ 0.44m である。断面形状は、逆台形状である。主軸方位：N－15°－E。覆土：1 箇所覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器 3 点、29.6 g が出土している。

時期

遺構形状、土層の堆積状況から他の土坑と類似するため平安時代から中世に相当すると考えられる。

第 17 号土坑—SK17

遺構（第 36 図 図版 6－8）

位置：I－13 グリッド。重複関係：SK16 を切っている。平面形・規模：楕円形を呈する。長軸 0.92m、短軸 0.80m、深さは 0.73m である。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N－

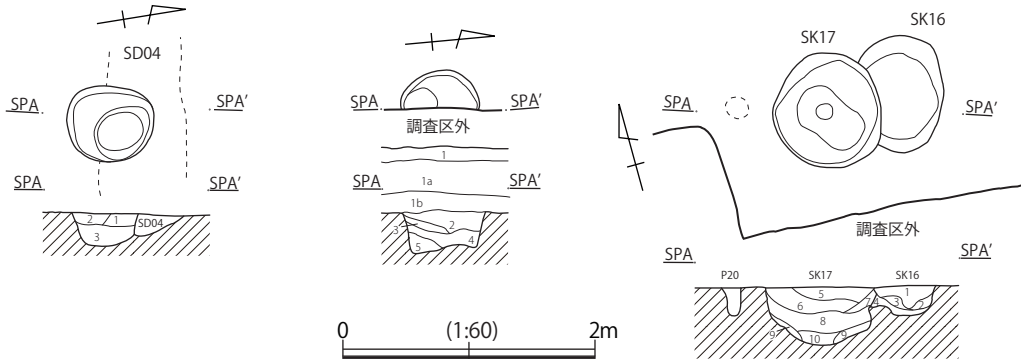
25° - E。覆土：1箇所で覆土を観察した。7層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第36図）

出土状況：出土遺物なし。

時期

出土遺物はないが、遺構形状、土層の堆積状況から平安時代から中世に相当すると考えられる。



SK14(SPA-SPA)

- 1層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子中量、φ1mmの黒褐色粒子微量、φ1~2mmの褐色粒子少量
- 2層 色調:10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ5~10mmの褐色ブロック少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 3層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、5~10mmの褐色ブロック中量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量

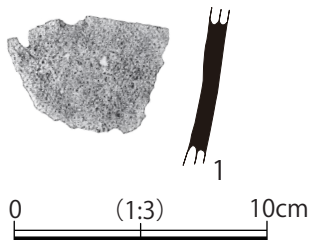
SK15(SPA-SPA)

- 1層 表土攪乱層
- 1a層 色調:10YR7/2(にぶい黄褐色) しまり:強い 粘性:なし 既存建物解体時の攪乱の影響を受けている。
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ5~10mmの黒褐色ブロック微量
- 1b層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1mmの赤褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ3~5mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量
- 3層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ1~2mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 4層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:なし 含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの褐色粒子少量
- 5層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~2mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量、φ1mmの黒褐色粒子微量

SK16・SK17(SPA-SPA)

- 1層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:強い 粘性:なし 含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1mmの黒褐色粒子微量
- 2層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの褐色粒子中量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ5~10mmの褐色ブロック少量
- 3層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:強い 粘性:あり 含有物:φ1mmの黒褐色粒子微量、φ5mmの褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量
- 4層 色調:10YR5/4(にぶい黄褐色) しまり:弱い 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1~5mmの赤褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子微量
- 5層 色調:10YR3/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:若干あり 含有物:φ3~5mmの褐色粒子微量、φ1~3mmの赤褐色粒子微量
- 6層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~3mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子微量、φ10mmの黒褐色ブロック微量
- 7層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1~2mmの褐色粒子少量、φ1mmの赤褐色粒子少量
- 8層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり 含有物:φ1mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子中量
- 9層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:若干あり 粘性:あり 含有物:φ3~5mmの黒褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子微量
- 10層 色調:10YR2/1(黒色) しまり:若干あり 粘性:強い 含有物:φ1~2mmの褐色粒子微量、φ1~5mmの赤褐色粒子少量

第36図 第14・15・16・17号土坑実測図 (SK14・SK15・SK16・SK17)



第37図 第14号土坑出土遺物
実測図 (SK14)

第 14 表 第 14 号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|------|------|----------|----|--------------------------|-------|----------|--|----|----|--------|------|
| 図版番号 | | | | | | | | | | | |
| 37-1 | SK14 | 須恵器 甕 | 胴部 | — | 35.3 | 外面 格子タタキ | φ1mm以下白色針状物質少量 φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下石英微量 | 良 | 外面 | 灰(N5/) | 南比企産 |
| 12-7 | | | | | | | | | 内面 | 灰(N6/) | |

第 18 号土坑—SK18

遺構（第 38 図）

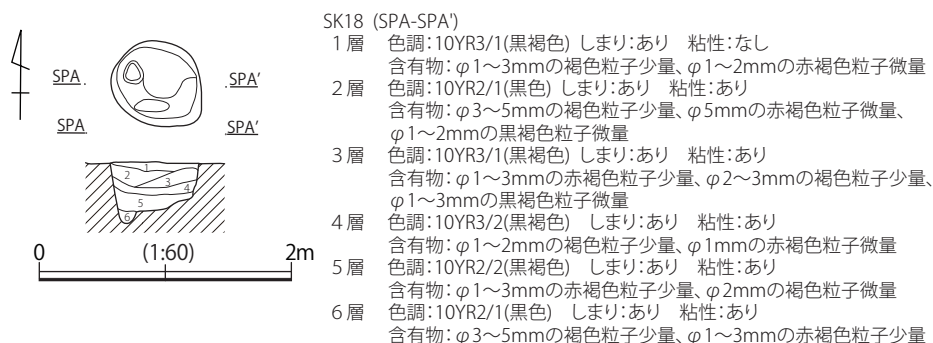
位置：I－12 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：円形を呈する。長軸 0.80m、短軸 0.66m、深さは 0.59m である。断面形状は、逆台形状である。SPA 側で一部深掘りされている。主軸方位：N－50°－E。覆土：1 箇所覆土を観察した。6 層に分層し、自然堆積であると考えられる。一部深掘りされているため柱穴であった可能性がある。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器 6 点、24.1 g が出土している。

時期

遺構形状、土層の堆積状況から平安時代から中世と考えられる。



第 38 図 第 18 号土坑実測図 (SK18)

第 19 号土坑—SK19

遺構（第 39 図 図版 7－1）

位置：E・F－2 グリッド。重複関係：SK20 との重複は不明である。平面形・規模：不整形な隅丸長方形を呈する。長軸 1.04m、短軸 0.62m、深さは 0.29m である。断面形状は、浅い皿形状である。主軸方位：N－70°－E。覆土：1 箇所覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器 6 点、13.3 g が出土している。紙幅の都合で図示できなかった。

時期

SK02、SK03 との遺構形状が類似することから平安時代から中世と考えられる。

第 20 号土坑—SK20

遺構（第 39 図 図版 7 - 1）

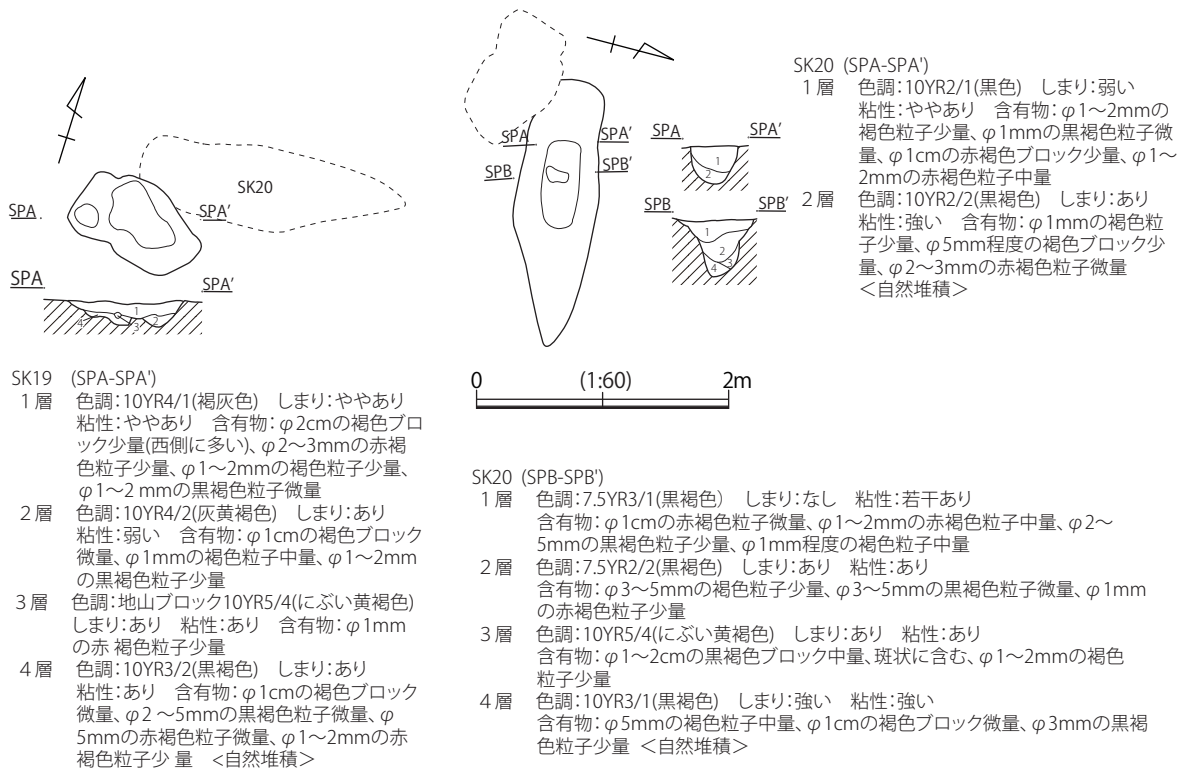
位置：F・G - 2 グリッド。重複関係：SK19 との重複は不明である。平面形・規模：西側は隅丸長方形、東端に向けて細くなっている。長軸 2.14m、短軸 0.58m、深さは 0.49m である。断面形状は、U 字状である。主軸方位：N - 100° - W。覆土：2 箇所所で覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積と考えられる。

遺物（第 40 図、第 15 表、図版 12 - 8、13 - 1）

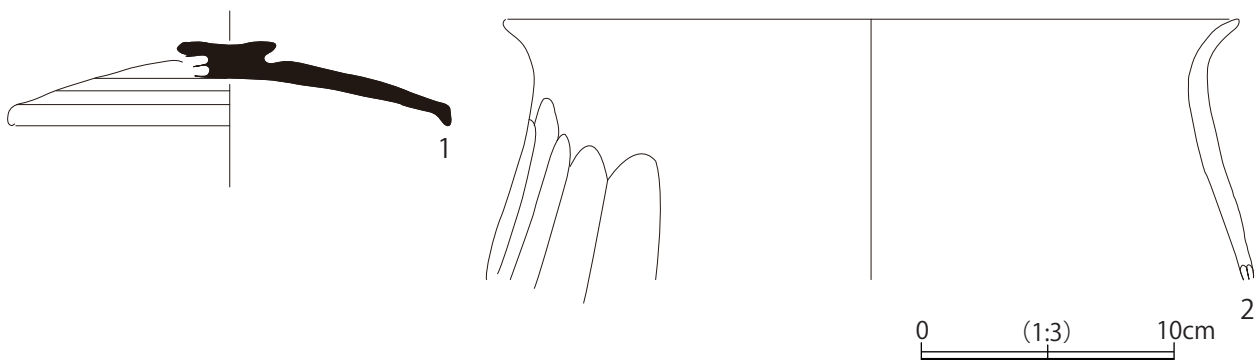
出土状況：本遺構からは、36 点、521.8 g が出土している。土師器 32 点、374.0 g、須恵器 4 点 147.8 g が出土している。遺物は、周辺からの流れ込みと考えられる。

時期

出土遺物から平安時代から中世に相当すると考えられる。



第 39 図 第 19・20 号土坑実測図 (SK19・SK20)



第 40 図 第 20 号土坑出土遺物実測図 (SK20)

第 15 表 第 20 号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|----------|------------|----------------------|-------|----------|--------------------------|---|----|----|----------------|----------------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 40-1 | SK20 | 須恵器 蓋 | 紐～口 縁部 | [18.6] 3.3 — | 103.9 | 外面 | 紐 ボタン状 回転ヘラナデか | φ1～3mm小礫微量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下白色針状物質極 微量 | 良 | 外面 | 灰(N6/) | 9c後半か 南比企産か |
| 12-8 | | | | | | 内面 | 回転ナデ | | | 内面 | 褐灰(10YR6/1) | |
| 40-2 | SK20 | 土師器 甕 | 口縁部 ～胴部 | — | 167.4 | 外面 | 口唇部 回転ナデ 胴部 ヘラクスリ(縦)か | φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 普通 | 外面 | にぶい黄褐(10YR7/4) | 器面: やや摩 滅 |
| 13-1 | | | | | | 内面 | ナデ(横) | | | 内面 | にぶい黄褐(10YR6/4) | |

第 21 号土坑—SK21

遺構 (第 41 図 図版 7-2)

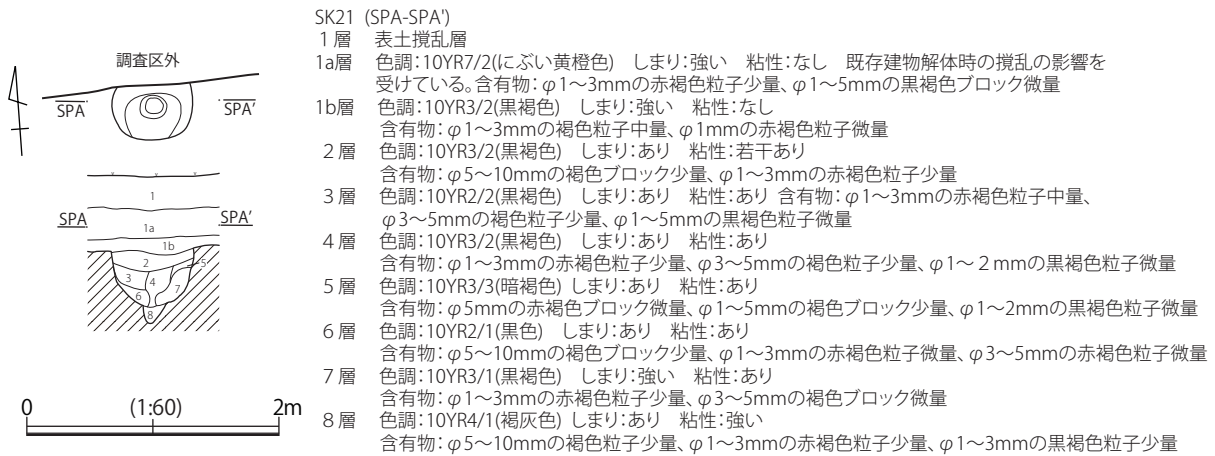
位置: J-10 グリッド。重複関係: なし。平面形・規模: 円形を呈する。径 0.64m、深さ 0.75m である。断面形状は、椀形状である。中央が深く掘り込まれており、土層の堆積状況から柱穴として使用されていた可能性がある。覆土: 1 箇所で覆土を観察した。7 層に分層し、中央の柱を抜き取ったあと人為的に埋められた可能性がある。

遺物 (第 42 図、第 16 表、図版 13-2)

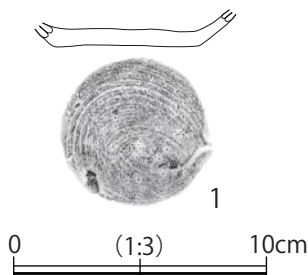
出土状況: 本遺構からは、15 点、95.5 g が出土している。土師器 10 点、39.6 g、ロクロ土師器 1 点、38.0 g、須恵器 4 点 17.9 g が出土している。

時期

出土遺物から平安時代から中世と考えられる。



第 41 図 第 21 号土坑実測図 (SK21)



第 42 図 第 21 号土坑
出土遺物実測図 (SK21)

第 16 表 第 21 号土坑出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|-------------|----|--------------------------|-------|---------------------|--|----|--------------|-------------------|
| 42-1 | SK21 | ロクロ土師器 坏 | 底部 | - | 38.0 | 底部 回転系切後底部外周回転へラケズリ | φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子微量 | 普通 | 外面 橙(5YR7/6) | 器面:やや摩滅 底部:煤付着 |
| 13-2 | | | | 内面 橙(7.5YR7/6) | | | | | | |

3 井戸跡

第 1 号井戸跡—SE01

遺構 (第 43 図 図版 7-3、4)

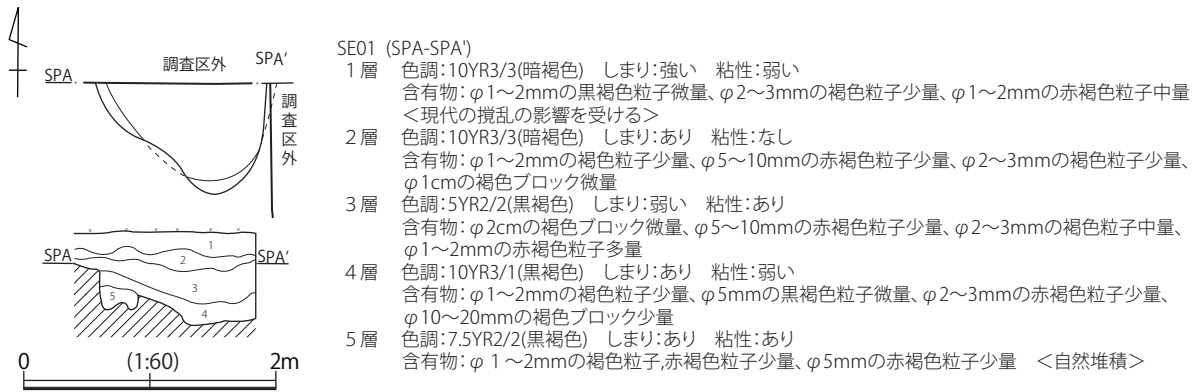
位置: F・G-1 グリッド。重複関係: なし。平面形・規模: 不整形な楕円形を呈すると考えられる。北半分は、調査区調査区域外にかかる。確認されている範囲で長さ 1.02m、深さ 0.48m である。断面形状は、確認された範囲ではすり鉢状である。覆土: 1 箇所覆土を観察した。5 層に分層し、自然堆積である。

遺物 (第 44 図、第 17 表、図版 13-3、4)

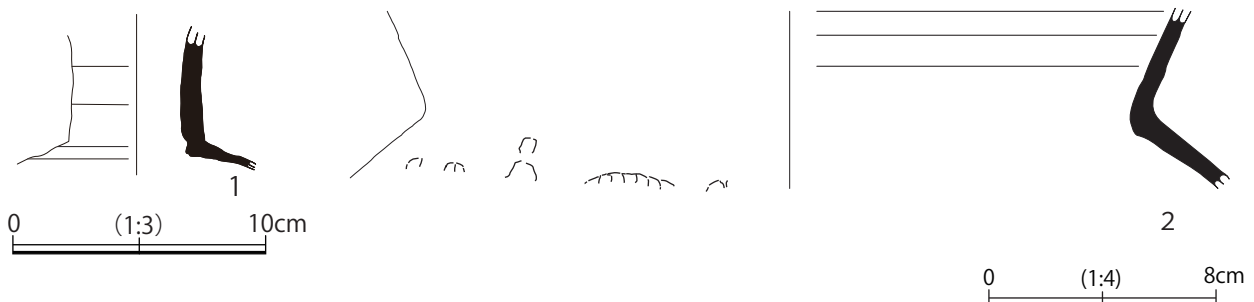
出土状況: 本遺構からは、34 点、953.7 g が出土している。土師器 22 点、93.9 g、ロクロ土師器 3 点、23.5 g、須恵器 9 点 836.3 g である。

時期

出土遺物から、平安時代以降と考えられる。



第 43 図 第 1 号井戸跡 (SE01)



第 44 図 第 1 号井戸跡出土遺物実測図 (SE01)

第17表 第1号井戸跡出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|------|----------|-----------|--------------------------|-------|----------|---------------------|------------------------------|----|----|-----------------------|------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 44-1 | SE01 | 須恵器 壺 | 頸部～ 胴部 | — | 73.4 | 外面 | ロクロ成形 | φ1mm以下白色粒子中量 | 良 | 外面 | 青灰(5B5/1) | |
| 13-3 | | | | | | 内面 | 頸部 巻き上げ痕 | | | 内面 | 青灰(5B6/1) | |
| 44-2 | SE01 | 須恵器 壺 | 頸部～ 胴部 | — | 660.7 | 外面 | タタキ目 | φ1mm以下白色針状物質中量 | 良 | 外面 | 頸部 灰(N4/ 胴部 灰(N6/) | 南比企産 |
| 13-4 | | | | | | 内面 | 粘土紐巻き上げ 横ナデ 当て具痕 | φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子微量 | | 内面 | 灰(N5/) | |

第2号井戸跡—SE02

遺構（第45図 図版7-5）

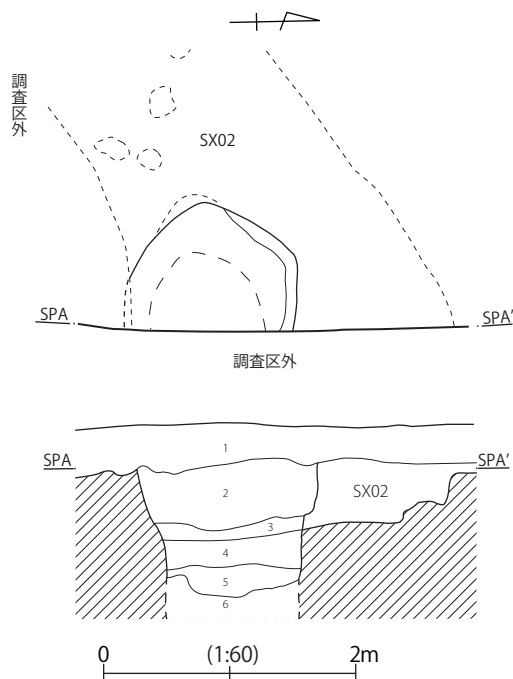
位置：G-6グリッド。重複関係：SX02を切っている。平面形・規模：不整形な円形を呈すると考えられる。東側3/1程度が調査区調査区域外にかかる。確認されている範囲で長さ約1.20m、深さ1.23mである。断面形状は、上部が漏斗形の筒状である。覆土：1箇所覆土を観察した。6層に分層し、自然堆積であると考えられる。掘削が困難であるため底部まで検出していない。

遺物（第46図、第18表、図版13-5、6）

出土状況：本遺構からは、31点、416.6gが出土している。土師器18点、68.6g、ロクロ土師器2点、46.2g、須恵器4点26.2g、陶器7点、275.6gである。

時期

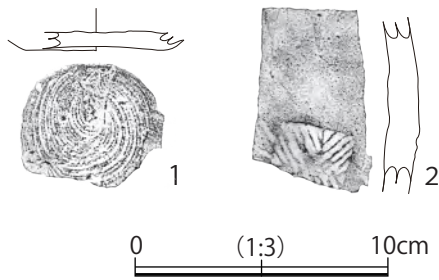
出土遺物から、中世以降と考えられる。



SE02(SPA-SPA')

- 1層 色調:10YR3/3(暗褐色) しまり:強い 現代の撈乱の影響を受けている。
粘性:なし 含有物:φ2~3mmの黒褐色粒子少量、φ2~3mmの赤褐色粒子少量、φ10~15mmの褐色ブロック微量、φ10mmの赤褐色ブロック微量
- 2層 色調:10YR6/3(にぶい黄褐色) しまり:強い 粘性:なし
含有物:φ5~10mmの赤褐色粒子少量、1~3mmの褐色粒子少量、φ1~3mmの赤褐色粒子少量
- 3層 色調:10YR3/1(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ5~10mmの赤褐色粒子少量、φ1~2mmの赤褐色粒子少量、褐色粒子少量、φ1~2mmの黒褐色粒子少量
- 4層 色調:10YR2/3(黒褐色) しまり:弱い 粘性:若干あり
含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ2~5mmの黒褐色粒子少量、φ10mmの黒褐色粒子微量
- 5層 色調:2.5Y3/1(黒褐色) しまり:なし 粘性:若干あり
異色の砂が半分程混じりさらさらする。
含有物:φ1~2mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子微量
- 6層 色調:10YR2/2(黒褐色) しまり:あり 粘性:あり
含有物:φ1~3mmの赤褐色粒子少量、φ3~5mmの褐色粒子微量

第45図 第2号井戸跡実測図 (SE02)



第 46 図 第 2 号井戸跡出土遺物実測図 (SE02)

第 18 表 第 2 号井戸跡出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土遺構 | 種別器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|------|------|-------------|----|--------------------------|-------|-------------------------|--------------------------------|----|---------------|------------|---------------|
| 図版番号 | | | | | | | | | 外面 | 内面 | |
| 46-1 | SE02 | ロクロ土師器 環 | 底部 | — | 29.3 | ロクロ成形 底部回転糸切後外周へラケズリ | φ1mm以下白色針状物質中量 φ1mm以下赤色粒子微量 | 良 | 外面 | 褐灰(5YR4/1) | 内面:炭化物 付着か |
| 13-5 | | | | 内面 | | | | | にぶい赤褐(5YR5/3) | | |
| 46-2 | SE02 | 陶器 甕 | 胴部 | — | 68.6 | 外面 | φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量 | 良 | 外面 | 黒(N2/) | |
| 13-6 | | | | 内面 | | 粘土紐巻き上げ 横ナデ | | | 内面 | 褐灰(5YR4/1) | |

第 3 号井戸跡—SE03

遺構 (第 47 図 図版 7-6)

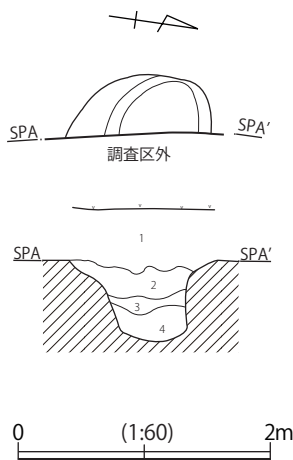
位置: G-2 グリッド。重複関係: なし。平面形・規模: 不整形な円形を呈すると考えられる。東側半分程度が調査区調査区域外にかかる。確認されている範囲で長さ約 1.00m、深さ 0.66m である。断面形状は、漏斗状である。覆土: 1 箇所覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況: 本遺構からは、土師器 3 点、10.3 g が出土している。

時期

平安時代以降と考えられる。



SE03 (SPA-SPA')

- 1層 色調: 10YR3/3(暗褐色) しまり: 強い 粘性: 弱い
含有物: φ1~2mmの黒褐色粒子微量、φ2~3mmの褐色粒子少量、
φ1~2mmの赤褐色粒子中量 <現代の攪乱の影響を受ける>
- 2層 色調: 7.5YR3/1(黒褐色) しまり: 強い 粘性: なし
含有物: φ1mmの黒褐色粒子微量、φ1mmの赤褐色粒子微量、φ10~20mmの
褐色ブロック微量、φ10mmの赤褐色粒子少量、φ5mmの褐色粒子少量
- 3層 色調: 10YR2/2(黒褐色) しまり: 強い 粘性: あり 含有物: φ2mmの黒褐色粒子少量、
φ5mmの赤褐色粒子少量、φ5~10mmの褐色粒子中量
- 4層 色調: 10YR3/3(暗褐色) しまり: ややあり 粘性: 強い
含有物: φ1mmの赤褐色粒子少量、φ1~3mmの黒褐色粒子微量、φ1~3mmの
褐色粒子中量 <自然堆積>

第 47 図 第 3 号井戸跡実測図 (SE03)

第4号井戸跡—SE04

遺構（第48図 図版7-7）

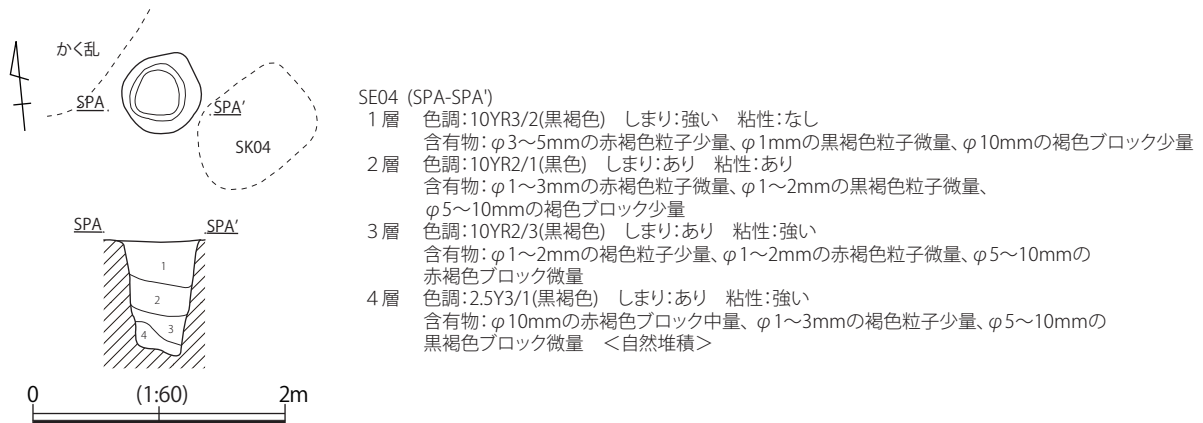
位置：E-5グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：円形を呈する。径0.64m、深さ0.97mである。断面形状は、筒状である。覆土：1箇所覆土を観察した。4層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第49図、第19表、図版13-7）

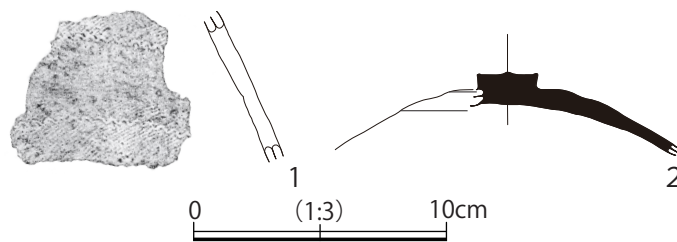
出土状況：本遺構からは、35点、233.1gが出土している。土師器32点、157.0g、須恵器3点76.1gが出土している。

時期

出土遺物から、平安時代から中世と考えられる。



第48図 第4号井戸跡実測図 (SE04)



第49図 第4号井戸跡出土遺物実測図 (SE04)

第19表 第4号井戸跡出土遺物観察表

| 挿図番号 図版番号 | 出土 遺構 | 種別 器種 | 部位 | 法量(cm) 口径 器高 底径 | 重量(g) | 成形・技法の特徴 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|--------------|----------|----------|----------|--------------------------|-------|----------|-------------------|---|----|----|----------------|-------|
| | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 49-1 13-7 | SE04 | 土師器 壺 | 胴部 | - | 41.3 | 外面 | 縄文LR→S字状結節文2条 | φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm赤色粒子微量 φ1mm以下雲母片微量 | 普通 | 外面 | にぶい黄橙(10YR6/4) | 外面:赤彩 |
| | | | | | | 内面 | ナデ(横) | | | 内面 | 褐灰(10YR5/1) | |
| 49-2 13-8 | SE04 | 須恵器 蓋 | 紐~体 部 | - | 73.0 | 外面 | 紐 擬宝珠形 回転へラケズリ | φ1mm以下白色針状物質少 量 φ1mm以下白色粒子少量 | 良 | 外面 | 青灰(5B5/1) | 9c代か |
| | | | | | | 内面 | 回転ナデ | | | 内面 | 緑灰(10G6/1) | |

4 ピット

遺構

本調査では、合わせて25基のピットを検出した。先の検出された遺構と遺物のピットの項で触れたが、調査区1のP03、P04及びP06は、SX01の内側にやや東寄りの位置に規則的に配置されており、かく乱により南西側を検出することができなかったが周溝内の建物跡の柱穴の可能性はある。

また、SX03は、東及び西端を検出することができなかったため全容はわからないが、南側に開口部を持つコの字又は口の字状と考えられる。SX01に調査区2のP08からP13、P15、P16、P18及びP19は、SX03の内側に集中していることから周溝内に設けられた建物跡の可能性はある。計測値等は第20表に示した。

遺物

出土状況：ピットから26点、130.6gの遺物が出土した。いずれも破片資料で図示できなかった。

5 遺構外出土遺物

遺物

本調査では、試掘調査時に出土した物を含め遺構外から274点、2080.9gの遺物が出土した。土師器258点、1934.3g、ロクロ土師器2点、17.5g、須恵器10点、55.9g、陶器4点、73.2gである。第21表に遺構出土遺物及び遺構外出土遺物の点数、重量を示した。

第 20 表 ピット計測表

| 遺構名 | 位置 (グリッド) | 平面 形状 | 長軸長 (m) | 短軸長 (m) | 深さ (m) | 出土遺物 | 備考 |
|-----|--------------|----------|------------|------------|-----------|---------------------------|----|
| P01 | D-2 | 円形 | 0.40 | 0.34 | 0.14 | 土師器2点 28.6g | |
| P02 | E-3 | 円形 | 0.50 | — | 0.26 | なし | |
| P03 | C-3 | 円形 | 0.36 | 0.30 | 0.31 | なし | |
| P04 | D-4 | 円形 | 0.26 | 0.20 | 0.28 | 土師器2点 2.1g | |
| P05 | B-1 | 円形 | 0.48 | 0.46 | 0.25 | なし | |
| P06 | B・C-4 | 円形 | 0.24 | 0.19 | 0.14 | 土師器3点 4.9g | |
| P07 | E-3 | 円形 | 0.30 | 0.30 | 0.20 | なし | |
| P08 | C-13 | 円形 | 0.28 | 0.28 | 0.37 | なし | |
| P09 | C-13 | 円形 | 0.24 | 0.20 | 0.41 | 土師器1点 0.8g | |
| P10 | C-13・14 | 円形 | 0.36 | 0.34 | 0.43 | 土師器1点 36.2g | |
| P11 | D-13 | 円形 | 0.36 | 0.36 | 0.62 | 土師器1点 10.5g | |
| P12 | D-13 | 円形 | 0.26 | 0.26 | 0.32 | 土師器1点 2.3g | |
| P13 | C-13 | 円形 | 0.34 | 0.24 | 0.39 | なし | |
| P14 | D・E-12・13 | 楕円形 | 0.54 | — | 0.22 | なし | |
| P15 | C-12 | 円形 | 0.34 | 0.32 | 0.61 | なし | |
| P16 | C-13 | 楕円形 | 0.44 | 0.32 | 0.49 | なし | |
| P17 | D-11 | 円形 | 0.30 | 0.26 | 0.52 | なし | |
| P18 | B-12・13 | 円形 | — | 0.26 | 0.65 | 土師器2点 1.2g 須恵器1点 0.7g | |
| P19 | B-13 | 円形 | 0.30 | — | 0.53 | なし | |
| P20 | H・I-13 | 円形 | 0.18 | 0.18 | 0.23 | なし | |
| P21 | H-10 | 円形 | 0.30 | 0.24 | 0.37 | 土師器1点 5.2g | |
| P22 | J-10 | 楕円形 | 0.32 | 0.20 | 0.38 | なし | |
| P23 | J-13 | 円形 | 0.30 | — | 0.14 | なし | |
| P24 | J-11 | 円形 | 0.28 | 0.22 | 0.35 | 土師器5点 15.5g 須恵器1点 2.1g | |
| P25 | J-11 | 楕円形 | 0.60 | 0.46 | 0.66 | 土師器5点 20.5g | |

第 21 表 遺物出土点数・重量一覧

| | 土師器 | | ロクロ土師器 | | 須恵器 | | 陶器 | | その他 | | | | 合計 | | |
|------|------|---------|--------|-------|-----|--------|----|-------|-----|----|----|---|-------|------|----------|
| | 点数 | 重量(g) | 点数 | 重量(g) | 点数 | 重量(g) | 点数 | 重量(g) | 種別 | | | | 重量(g) | 点数 | 重量(g) |
| | | | | | | | | | 石 | 砥石 | 古銭 | 礫 | | | |
| SX01 | 176 | 1,651.0 | 2 | 30.5 | 8 | 54.4 | 4 | 66.5 | 1 | 1 | 1 | | 56.2 | 193 | 1,858.6 |
| SX02 | 71 | 647.0 | | | 15 | 167.6 | | | | | | | | 86 | 814.6 |
| SX03 | 20 | 243.8 | | | 2 | 3 | | | | | | | | 22 | 246.8 |
| SX05 | 6 | 104.5 | | | | | | | | | | | | 6 | 104.5 |
| SD01 | 14 | 57.4 | | | 1 | 3 | | | | | | | | 15 | 60.4 |
| SD02 | 13 | 38.0 | | | | | | | | | | | | 13 | 38.0 |
| SD03 | 175 | 828.5 | 3 | 19.1 | 40 | 192.6 | 3 | 6.8 | | | | | | 221 | 1,047.0 |
| SD04 | 56 | 135.5 | 2 | 42.2 | 23 | 117 | 2 | 16.3 | | | | | | 83 | 311.0 |
| SD05 | 8 | 40.1 | | | | | | | | | | | | 8 | 40.1 |
| SK01 | 42 | 117.1 | 7 | 190.3 | 10 | 74.4 | | | 2 | | | | 22.5 | 61 | 404.3 |
| SK02 | 14 | 43.8 | 1 | 2.4 | 2 | 13.7 | | | | | | | | 17 | 59.9 |
| SK03 | 9 | 17.1 | 1 | 6.7 | | | | | | | | | | 10 | 23.8 |
| SK04 | 70 | 2,655.6 | | | | | | | | | | | | 70 | 2,655.6 |
| SK05 | 48 | 93.1 | 6 | 42.4 | 4 | 43.4 | | | | | | 1 | 24.1 | 59 | 203.0 |
| SK06 | 11 | 30.5 | 1 | 5 | 6 | 52.8 | | | | | | 1 | 226.9 | 19 | 315.2 |
| SK07 | 6 | 34.4 | | | 4 | 87 | | | | | | | | 10 | 121.4 |
| SK08 | 20 | 82.6 | | | 6 | 40.6 | | | | | | | | 26 | 123.2 |
| SK09 | 1 | 5.1 | | | | | | | | | | | | 1 | 5.1 |
| SK10 | 欠 番 | | | | | | | | | | | | | | |
| SK11 | 11 | 29.2 | | | 1 | 5.1 | | | | | | | | 12 | 34.3 |
| SK12 | 10 | 92.3 | | | | | | | | | | | | 10 | 92.3 |
| SK13 | 8 | 37.4 | | | | | | | | | | | | 8 | 37.4 |
| SK14 | 9 | 24.5 | 1 | 6.1 | 2 | 40.7 | | | | | | | | 12 | 71.3 |
| SK16 | 3 | 29.6 | | | | | | | | | | | | 3 | 29.6 |
| SK18 | 6 | 24.1 | | | | | | | | | | | | 6 | 24.1 |
| SK19 | 6 | 13.3 | | | | | | | 2 | | | | 26.5 | 8 | 39.8 |
| SK20 | 32 | 374.0 | | | 4 | 147.8 | | | | | | | | 36 | 521.8 |
| SK21 | 15 | 59.6 | 2 | 39.9 | 6 | 125.2 | | | | | | | | 23 | 224.7 |
| SE01 | 22 | 93.9 | 3 | 23.5 | 9 | 836.3 | | | | | | | | 34 | 953.7 |
| SE02 | 18 | 68.6 | 2 | 46.2 | 4 | 26.2 | 7 | 275.6 | | | | | | 31 | 416.6 |
| SE03 | 3 | 10.3 | | | | | | | | | | | | 3 | 10.3 |
| SE04 | 32 | 157.0 | | | 3 | 76.1 | | | | | | | | 35 | 233.1 |
| Pit | 24 | 127.8 | | | 2 | 2.8 | | | | | | | | 26 | 130.6 |
| 遺構外 | 106 | 920.7 | 2 | 17.5 | 6 | 40.1 | 4 | 73.2 | | | | | | 118 | 1,051.5 |
| 試掘 | 152 | 1,013.6 | | | 4 | 15.8 | | | | | | | | 156 | 1,029.4 |
| 合計 | 1217 | 9901.0 | 33 | 471.8 | 162 | 2165.6 | 20 | 438.4 | 5 | 1 | 1 | 2 | 356.2 | 1441 | 13,333.0 |

第4章 まとめ

今回の前谷遺跡第6次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、土坑1基、平安時代から中世相当の溝状遺構5基、土坑19基、井戸跡4基、時期不明のピット25基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭

本次の調査では、4基の周溝状遺構を検出した。SX01は、西側の先端部以外ほぼ全体を検出し、溝が弧を描く南側に開口部をもつ半円状である。また、P03、P04及びP06は、SX01の内側にやや規則的に配置されていることから周溝内の建物跡の付帯施設の可能性がある。岩井聖吾氏による戸田市域における周溝状遺構の集成及び分析（岩井・坂上・山崎2013。以下「岩井分析」という。）の3類bの周溝プランに相当する。

SX03は、南、東及び西端が検出されていないため全容は不明であるが南東又は南西に開口部をもつ「コ」又は「ロ」の字状であると考えられる。SX01と同様に調査区2のP08からP13、P15、P16、P18及びP19は、SX03の内側に集中していることから周溝内に設けられた付帯施設の可能性がある。周溝プランは、岩井分析の1類に相当すると考えられる。

SX02及びSX05は、部分的な検出であり、全体の形状は不明であるが、掘り込みが深く、また、SX02の付近のSK04から赤彩を有する複合口縁の壺形土器複数個体分の破片がまとまって出土していることから、方形周溝墓であった可能性がある。

出土遺物は、いずれも破片資料であり、遺構が埋没する過程で周辺から流れ込んだものと考えられ、完形に復元できたものはなかった。

今回の調査で検出した4基の周溝状遺構を含めると、前谷遺跡において検出された周溝状遺構は、19基を数える（第1次調査：2基 第2次調査：2基 第3次調査：6基 第4次調査：1基 第5次調査：4基 本次：4基）。岩井分析によると戸田市域の周溝状遺構の開口部は、南西（39%）又は南東（31%）が多い傾向にあり約7割を占める。SX01及びSX03も市内の傾向に当てはまるものと考えられる。

本次の調査においても、当該期の竪穴住居跡は検出されていない。SX01及びSX03は、周溝持建物跡として当該期の住居としての役割を果たしていた可能性が考えられるが、今回の前谷遺跡第6次調査は、前谷遺跡包蔵地の南西端であり、前谷遺跡内の集落がさらに西側から南西側に拡大する可能性がでてきた。

周溝状遺構は、戸田市の立地の特徴でもある自然堤防上にみられる遺構である。この自然堤防に合わせて前谷遺跡の当該期の集落がさらに広がりをもつことが想定され、出土土器の系譜を含め、引き続きこれまでの調査成果と今回の調査成果を総合的に分析し、周溝状遺構群形成過程の研究を進める必要があるだろう。

2 平安時代から中世

本次の調査で出土した特徴的な遺物として、SK20 及び SE04 から須恵器の蓋が出土している。SK20 出土の蓋は、直径が 18 cm を超えると考えられ、9 世紀後半の碗に伴うものと考えられる。SE04 出土の蓋についても 9 世紀代のものと考えられる。

前谷遺跡の特徴として、生活用具である土師器の甕などに比べ須恵器が多く出土することが挙げられ、今回の調査でもそれに当てはまると考えられる。

また、これまで第 1 次調査では灰釉陶器がまとまって出土しており、第 2 次及び第 4 次調査では小破片であるが瓦塔屋蓋部破片がそれぞれ 1 点ずつ出土している。この瓦塔屋蓋部破片は、いずれも遺構に伴う遺物としてではなく、中世の井戸跡又は試掘調査時に出土したものであり、破片が流れ込んだものと考えられる。

瓦塔の造立目的には諸説あるが、いずれにせよ平安時代には前谷遺跡の集落内に仏堂施設があったことが想定され、当該期の仏堂施設及びそれに付帯する墓域の存在が想定される。

平安時代の前谷遺跡の遺物出土の傾向性もこれに起因している可能性があり、今回の調査を含め、これまでの調査報告書に掲載されなかった小破片を含めた、再整理の必要性があるだろう。

また、本次の調査において調査区 3 の土坑については、柱穴の可能性のあるものが含まれており、また、土坑間も 1.7 ～ 2.2 m 間隔になって規則的なものもあることから、柵列又は掘立柱建物になる可能性がある。

溝跡については、SD03 及び SD04 は、おおむね東西に延びており、中世以降の区画溝と考えられる。これまでの調査で検出された溝と接続すると考えられるものがなかったため、どの程度の延長を持つものかは不明である。

3 まとめ

以上のように前谷遺跡第 6 次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構がまとまって 4 基検出された。戸田市域の当該期の集落の特徴的な住居形態であり、大きな成果である。引き続き、集落の全容を復元するため周溝状遺構の機能について調査・研究を進めるとともに、他地域の周溝状遺構との比較を含めた集落研究につなげていくことが必要であろう。

また、本調査においても、前谷遺跡の特徴である平安期の須恵器が多数出土しており、平安時代における前谷遺跡の集落の在り方について調査・研究を進めていく必要があるだろう。先にも述べたように、前谷遺跡内には仏堂施設が所在していたことが想定され、その位置についても注意深く調査を進める必要があるだろう。

さらに、平安時代から中世にかけて遺構に伴わない流れ込みの土器の量が多いため、当該期に前谷遺跡内で大規模な土地改変等の開発が行われた可能性がある。

時間的制約と紙幅の都合により十分な整理作業が行えなかったが、今後も引き続き、発掘調査による資料の積み上げ、周辺遺跡との比較検討を行い、前谷遺跡ひいては戸田市域に暮らした人々の生活の復元を行っていきたい。

引用・参考文献

赤熊浩一

- 2012 『前谷遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第394集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

岩井聖吾・坂上直嗣・山崎裕子

- 2013 『南原遺跡XI』 戸田市文化財調査報告XVIII 戸田市教育委員会

岩井聖吾

- 2014 『前谷遺跡』 戸田市文化財調査報告XIX 戸田市教育委員会
2015 『前谷遺跡』 戸田市文化財調査報告XX 戸田市教育委員会

古代の入間を考える会

- 2012 『古代入間の土器と遺跡（I）—須恵器坏の編年と遺跡動態を考える—』
2013 『古代入間の土器と遺跡（II）—須恵器坏の編年（9・10世紀）—』
2014 『南比企窯と東金子窯1 8世紀の東金子窯の編年と土器の分布』
2015 『南比企窯と東金子窯2 東金子窯の開窯と9世紀の編年』

埼玉県戸田市教育委員会

- 1985 『戸田市の寺社』 戸田市文化財調査報告XVI

写真図版



1 調査区1完掘状況（南東から）



2 調査区1遺構検出状況（北東から）



1 調査区2完掘状況（北から）



2 調査区2遺構検出状況（北東から）



1 調査区3完掘状況（南から）



2 調査区3遺構検出状況（北西から）



1 第1号周溝状遺構（南東から）



2 第1号周溝状遺構土器出土状況（南から）



3 第2号周溝状遺構（西から）



4 第2号周溝状遺構土器出土状況（東から）



5 第3号周溝状遺構（西から）



6 第5号周溝状遺構（西から）



7 第1・2号溝状遺構（北から）



8 第3号溝状遺構（北から）



1 第4・5号溝状遺構（東から）



2 第1・6号土坑（南東から）



3 第1号土坑遺物出土状況（北から）



4 第2号土坑（北東から）



5 第3号土坑（東から）



6 第4号土坑（北から）



7 第4号土坑遺物出土状況（北から）



8 第5号土坑（北から）



1 第7号土坑（南東から）



2 第7号土坑遺物出土状況（東から）



3 第9号土坑（北から）



4 第11号土坑（南から）



5 第12号土坑（東から）



6 第13号土坑（東から）



7 第14号土坑（北から）



8 第16・17号土坑（南西から）



1 第19・20号土坑（西から）



2 第21号土坑（南から）



3 第1号井戸跡（東から）



4 第1号井戸跡遺物出土状況（西から）



5 第2号井戸跡調査状況（南から）



6 第3号井戸跡（東から）



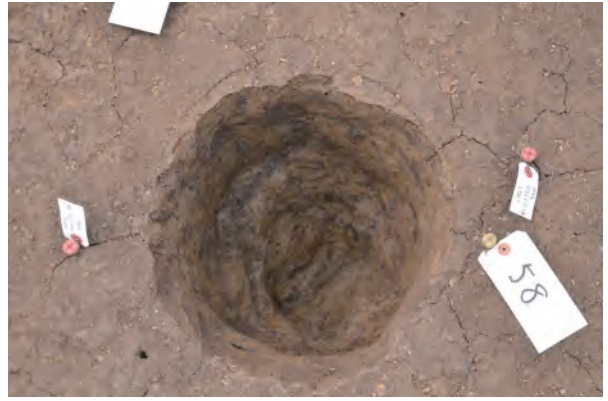
7 第4号井戸跡（南西から）



8 第2号ピット（南から）



1 第10号ピット (南から)



2 第11号ピット (南から)



3 第12号ピット (南から)



4 第15号ピット (南から)



5 第21号ピット (北から)



6 第22号ピット (北から)



7 第24・25号ピット上の焼土検出 (南東から)



8 第25号ピット (南から)



1 第1号周溝状遺構 (第11図1)



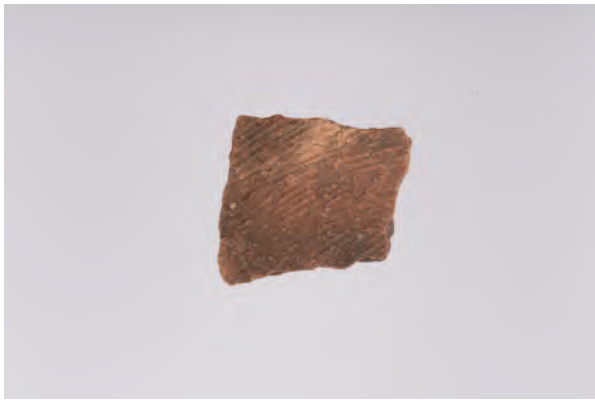
2 第1号周溝状遺構 (第11図2)



3 第1号周溝状遺構 (第11図3)



4 第1号周溝状遺構 (第11図4)



5 第1号周溝状遺構 (第11図5)



6 第1号周溝状遺構 (第11図6)



7 第1号周溝状遺構 (第11図7)



8 第1号周溝状遺構 (第11図8)



1 第2号周溝状遺構 (第13図1)



2 第2号周溝状遺構 (第13図2)



3 第2号周溝状遺構 (第13図3)



4 第3号周溝状遺構 (第15図1)



5 第3号周溝状遺構 (第15図2)



6 第3号周溝状遺構 (第15図3)



7 第5号周溝状遺構 (第17図1)



8 第4号土坑 (第19図1)



1 第4号土坑 (第19图2)



2 第4号土坑 (第19图3)



3 第4号土坑 (第19图4)



4 第4号土坑 (第19图5)



5 第3号沟迹 (第22图1)



6 第3号沟迹 (第22图2)



7 第1号土坑 (第26图1)



8 第5号土坑 (第28图1)



1 第6号土坑 (第29图1)



2 第6号土坑 (第29图2)



3 第7号土坑 (第30图1)



4 第7号土坑 (第30图2)



5 第8号土坑 (第32图1)



6 第12号土坑 (第35图1)



7 第14号土坑 (第37图1)



8 第20号土坑 (第40图1)



1 第20号土坑 (第40图2)



2 第21号土坑 (第42图1)



3 第1号井戸跡 (第44图1)



4 第1号井戸跡 (第44图2)



5 第2号井戸跡 (第46图1)



6 第2号井戸跡 (第46图2)



7 第4号井戸跡 (第49图1)



8 第4号井戸跡 (第49图2)

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|---------------------------|---------------------|---|---------------------------------|----------------------------|------------|
| ふりがな | まえやいせきろく まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
| 書名 | 前谷遺跡VI 埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 戸田市文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 28 | | | | | | | |
| 編著者名 | 吉田 幸一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 戸田市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田 1-18-1 TEL 048 (441) 1800 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2019 (平成 31) 年 3 月 29 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 |
| まえやいせき 前谷遺跡 だいろくじちょうさ 第6次調査 | とだし かみとだ 戸田市上戸田 2丁目25番5、 12 | 11224 | 06- 003、 004、005 | 35° 48' 46" | 139° 40' 48" | 2017. 4. 17 ～ 2017. 5. 31 | 211. 66 | 個人住宅 建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 前谷遺跡 | 集落跡 | 弥生時代 後期後半 ～ 古墳時代 前期初頭 | 周溝状遺構 4基 土坑 1基 | 土師器 | ・荒川流域の微高地でよく検出される周溝状遺構が4基検出された。 | | | |
| | | 平安～ 中世 | 溝跡 5条 土坑 19基 井戸跡 4基 | 須恵器 陶器 ロクロ土師器 | ・土坑の一部は、掘立柱建物又は柵列の可能性がある。 ・中世以降の区画溝と考えられる溝跡が2条検出された。 | | | |
| | | その他 | ピット 25基 | 土師器 須恵器 | ・ピットの一部は、周溝状遺構の付帯施設の可能性がある。 | | | |
| 要約 | <p>本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である前谷遺跡の範囲に属し、JR埼京線戸田公園駅から北東に約600mの戸田市上戸田2丁目25番5、12に所在する。</p> <p>前谷遺跡は、荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に氾濫や流路変更によって左岸に発達した自然堤防上に立地している。</p> <p>調査の結果、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭では周溝状遺構5基を検出した。平安～中世では溝状遺構5条、井戸跡4基を検出した。その他時期不明の土坑20基、ピットを25基検出した。出土遺物は弥生時代～古墳時代前期初頭の土器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中世相当の陶器を検出した。</p> <p>今回の調査により、調査区周辺は弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭では周溝状遺構群が形成されており、平安～中世にかけては溝状遺構や土坑、井戸跡が構築されていたことが判明した。</p> | | | | | | | |

戸田市文化財調査報告 XXVIII

前 谷 遺 跡 VI
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1
TEL 048(441)1800
印刷 有限会社宮園印刷
〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽1313-1
発行日 平成31年3月29日

